

大八木寺東遺跡

工場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2020

高崎市教育委員会
株式会社鳥屋銅鐵店
技研コンサル株式会社

高崎市文化財調査報告書第453集

大八木寺東遺跡

工場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2020

高崎市教育委員会
株式会社鳥屋銅鐵店
技研コンサル株式会社

例　　言

- 1 本報告書は工場建設に伴う「大八木寺東遺跡」（市遺跡コード：793）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査から報告書刊行に至るまでの一連の作業は、株式会社鳥屋銅鐵店の費用負担によって実施された。記して感謝の意を申し上げます。

- 3 本調査および整理作業は高崎市教育委員会文化財保護課の指導のもと、技研コンサル株式会社が実施した。
- 4 調査体制は以下の通りである

遺跡所在地　群馬県高崎市大八木町字寺東 1197 番 8、小八木町字掛ノ上 311 番 4
監理指導　高崎市教育委員会文化財保護課
発掘・整理担当　佐野良平（技研コンサル株式会社）
発掘調査期間　令和 2 年 3 月 5 日～令和 2 年 4 月 28 日
整理・報告書作成期間　令和 2 年 5 月 1 日～令和 2 年 7 月 31 日
調査面積　789.8 m²

- 5 本書の編集は佐野が行い、原稿執筆については I を高崎市教育委員会文化財保護課、他を佐野が担当した。
- 6 発掘調査・整理作業参加者は次のとおりである。

岡野　茂　松村春樹　丸山和浩　大川明子（技研コンサル株式会社）
青山純二　芦川良紀　畔見恒夫　安藤三枝子　石川承子　宇賀美代子　岡部四朗　岡本陽一　小澤宏之
桑原　清　木暮廣一　木暮知二　小林千恵美　小林　和　今野妙子　坂庭孝代　清水隆二　杉田友香
鈴木史子　曾根　裕　曾根良美　高橋政芳　立川千栄子　田所順子　長岡　武　西潟　登　西山康子
乘附敏男　福田邦弘　二橋正雄　星野一江　細野竹美　水野さかゑ　矢島昭司　吉浦英和

- 7 本書における図面・写真・遺物は、高崎市教育委員会で保管されている。

- 8 下記の諸氏・諸機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。

株式会社測研　建設設計群株式会社　山下工業株式会社

凡　　例

- 1 掘図中に使用した北は座標北であり、座標については世界測地系に基づく平面直角座標第 IX 系を使用した。

- 2 掘図に国土地理院発行 1/25,000 「前橋」、高崎市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。

- 3 遺構名称は、竪穴建物跡：SI、周溝墓：SZ、溝跡：SD、土坑：SK、ピット：SP である。

- 4 遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。

遺構　竪穴建物跡、周溝墓、溝跡、土坑、ピットほか・・・1/30、1/60

全体図・・・1/400

遺物　土器・・・1/3、1/4　瓦製品・・・1/4、1/6　鉄製品・・・1/1、1/6　石製品・・・1/1、1/6

- 5 本文および表中の計測値については（ ）は現存値を、〔 〕は復元値を表す。

- 6 遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。

遺物実測図・・・須恵器：■　施釉：■　灰釉陶器：■

目 次

はじめに

例言・凡例

I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	1
1 地理的環境	
2 歴史的環境	
III 調査方針と経過	3
1 発掘調査	
2 整理作業	
IV 基本土層	3
V 遺構と遺物	5
1 積穴建物跡	
2 周溝墓	
3 溝・土坑・ピット	
VI まとめ	49

挿図目次

第1図 調査区位置図	1 第17図 SI38～40・47・51	28
第2図 周辺道路図	2 第18図 SI49・50・52・58, SI55・56 カマド	29
第3図 基本土層	4 第19図 SI53～56・58～60	30
第4図 大八木寺東道路全体図	4 第20図 SI61・62, SK16・17・19～21	31
第5図 SI1・2・15, SD1	16 第21図 SI21 SZ1	32
第6図 SI3～6, SK1	17 第22図 SI1～4 出土遺物	33
第7図 第7図 SI4～10, SK2・5	18 第23図 SI4・5・7～11 出土遺物	34
第8図 SI11・12・24・25	19 第24図 SI12・16～17 出土遺物	35
第9図 SI13・14・16・21・22, SK3	20 第25図 SI17・19・23～27 出土遺物	36
第10図 SI17～20	21 第26図 SI28・30・32～33～35・37・38 出土遺物	37
第11図 SI23・57, SD2	22 第27図 SI39・42・43・44・46・49・50～54 出土遺物	38
第12図 SI36・27, SI23 カマド	23 第28図 SI54～56・58・61, SZ1, SK17 出土遺物	39
第13図 SI32・48, SI27 カマド	24 第29図 SK17, 遺構出土遺物	40
第14図 SI28・29・36・41, SI34 カマド	25 第30図 大八木寺東道路 積穴建物跡全図	50
第15図 SI34・35・42～46・63	26	
第16図 SI30・31・33～37, SI44 型	27	

表目次

第1表 大八木寺東道路 出土遺物観察表	40
第2表 溝・土坑・ピット計測表	46
第3表 大八木寺東道路の積穴建物跡の年代一覧表	50

写真図版

PL.1 調査区全景	PL.7 SI23カマド全景, SI26全景, SI27全景, SI27カマド全景
PL.2 調査区北西側全景、調査区北東側全景、調査区東側全景 調査区中央全景、調査区西東側全景	SI28全景, SI28カマド全景, SI30・31全景, SI32全景
PL.3 調査区中央側全景、調査区南東側全景、調査区南側全景	PL.8 SI32カマド全景, SI34全景, SI34カマド全景, SI35全景
PL.4 調査区南側全景、調査区南西側全景、SI1・2全景 SI1カマド全景, SI3全景, SI3カマド全景	SI35カマド全景, SI37全景, SI37カマド全景, SI38全景
PL.5 SI4～6全景, SI7・8全景, SI9全景, SI9カマド全景 SI10全景, SI11・24・25全景, SI12全景, SI13全景	PL.9 SI38カマド全景, SI39全景, SI39カマド全景, SI29・36全景 SI41～44全景, SI45・46全景, SI39・40・46全景
PL.6 SI14・22全景, SI15・SD1全景, SI15カマド全景 SI16・21全景, SI17・18・20全景, SI17カマド全景 SI19全景, SI23全景	SI49～52全景
	PL.10 SI53全景, SI54全景, SI55カマド全景, SI56カマド全景 SI61全景、調査区南西側SI群全景、調査区南西側SI群全景 SZ1全景
	PL.11～16 出土遺物

I 調査に至る経緯

令和元年11月上旬、事業者である株式会社鳥屋銅鐵店から、高崎市大八木町および小八木町において計画している工場建設工事に先立つ埋蔵文化財の照会が高崎市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。該当地は周知の埋蔵文化財包蔵地である小八木10遺跡内に所在するため、工事前に文化財保護法第93条第1項の規定による届出が必要であることを伝えた。

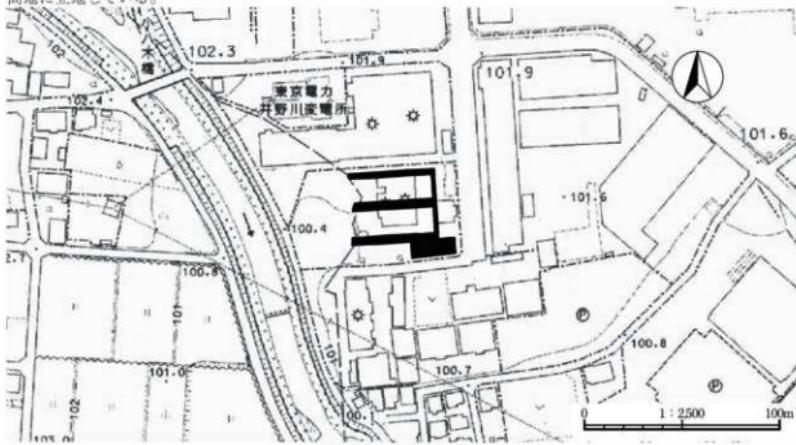
令和元年12月9日、市教委に第93条第1項の届出、埋蔵文化財確認調査申請書が提出され、令和元年12月26日に確認調査を実施した。その結果、古代の竪穴建物等を確認した。この結果をもとに事業者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお、遺跡名については「大八木寺東遺跡」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に準じ、令和2年2月6日に事業者株式会社鳥屋銅鐵店・民間調査機関技研コンサル株式会社・市教委での三者協定を締結、事業者と民間調査機関の間で発掘調査の契約を締結し、調査実施にあたっては市教委が指導・監督することとなった。

II 遺跡の位置と環境

1 地理的環境（第1図）

本遺跡が所在する高崎市大八木町は高崎市街地中心より北方約4kmに位置し、遺跡の南東500mの所では国道17号線高崎前橋バイパスと県道25号線高崎渋川バイパスが交差する。大八木地域は榛名山南東の山麓に広がる相馬ヶ原扇状地から前橋台地や高崎台地といった平野部へと移行する地形の変換域にあたる。周辺域は扇状地内を流れる井野川やその支流である天王川や唐沢川などの中小河川により、浸食谷と自然堤防状の微高地が形成されている。井野川は昭和44年（1969）の河川改修工事が行われるまで大八木地域周辺では大きく蛇行した流路であった。本遺跡は地形的には相馬ヶ原扇状地末端部として区分され、井野川の左岸にあたる自然堤防状の微高地に立地している。



第1図 調査区位置図

2 歴史的環境（第2図）

本跡周辺地域で旧石器時代の遺跡は確認されていないが、雨蓋遺跡（20）で堅穴住居跡（平安時代）の覆土中から槍先型尖頭器が出土しており、周辺域で遺跡の存在を窺わせる。

縄文時代の遺跡は、前期では熊野堂遺跡（22）で堅穴住居跡、中期になると正觀寺遺跡群（7）、雨蓋遺跡、大八木箱田池遺跡・II（12・13）で概期の遺構が確認されている。

弥生時代中・後期になると井野川流域に集落が多く営まれる。集落遺跡として猿府川流域では西浦北遺跡（14）、福島富士腰南遺跡（17）、天王川流域では正觀寺遺跡群、小八木志志貝戸遺跡（5）、諸口遺跡（10）等が挙げられる。熊野堂遺跡、西浦北遺跡では方形周溝墓、小八木志志貝戸遺跡では土器墓群が確認されている。集落の周辺には水田（As-C下水田跡）広がり、小八木遺跡（4）、熊野堂遺跡、日高遺跡（41）等で調査されている。

古墳時代前期の集落域は猿府川流域では熊野堂遺跡・西浦北遺跡、天王川流域では小八木志志貝戸遺跡周辺に集約され、後期になると増加する傾向が見られる。古墳の分布は天王川流域にはオトウカ山古墳（A）や諸口古墳群（D）、井野川の中流域右岸（浜尻町・貝沢町周辺）の自然堤防状に古墳が築造される。該期の生産域は井野川上流域の大八木屋敷遺跡（23）、熊野堂遺跡や融通寺遺跡（24）でHr-FA下水田跡が確認されている。

奈良・平安時代になると集落はさらに増加する。熊野堂遺跡、融通寺遺跡、大八木屋敷遺跡、大八木伊勢廻遺跡（18）、正觀寺遺跡群等で該期の集落が確認されている。熊野堂遺跡、西浦南遺跡（15）では東山道国府ルートと考えられる道路状遺構が確認されている。大八木屋敷遺跡の掘立柱建物跡は「上野国交替実績帳」にみられる「八木院」に関連する遺構とされている。天仁元年（1108）の浅間山噴火により降灰したAs-B軽石に被覆された水田（As-B下水田）が大八木水田遺跡（25）、井野屋敷前遺跡（35）、井野屋敷添遺跡（37）、井野矢ノ上遺跡（39）、井野・天水遺跡（36）で検出されている。



1. 大八木寺東道路
 2. 小八木堀跡遺跡
 3. 小八木井野川遺跡
 4. 小八木遺跡
 5. 小八木志志貝戸遺跡
 6. 正觀寺西原道路
 7. 正觀寺遺跡群
 8. 小八木宅地池遺跡
 9. 中川遺跡
 10. 諫口遺跡
 11. 中泉遺跡
 12. 大八木箱田池遺跡
 13. 大八木箱田池遺跡 II
 14. 西浦北遺跡
 15. 西浦南遺跡
 16. 福島富士腰南遺跡
 17. 福島富士腰北遺跡
 18. 熊野堂遺跡
 19. 天王川遺跡
 20. 雨蓋遺跡
 21. 熊野堂遺跡 II
 22. 熊野堂遺跡
 23. 大八木屋敷遺跡
 24. 融通寺遺跡
 25. 大八木水田遺跡
 26. 井野川道路
 27. 浜尻八幡原遺跡
 28. 大八木換地分遺跡
 29. 浜尻 A 地点遺跡
 30. 浜尻 B 地点遺跡
 31. 浜尻貝戸遺跡
 32. 井野高岡遺跡
 33. 小八木村末道路
 34. 小八木志志貝戸遺跡
 35. 井野屋敷前遺跡
 36. 井野・天水道路
 37. 井野屋敷添遺跡
 38. 井野清水道路
 39. 井野矢ノ上道路
 40. 中尾村前道路
 41. 日高道路
- a: 中泉の砦
b: 熊野堂館
c: 八木屋敷
d: 黒崎城
e: 井野屋敷
f: 井野屋敷添遺跡

第2図 周辺遺跡図

III 調査方針と経過

1 発掘調査

今回の発掘調査は、高崎市教育委員会による試掘調査の結果に基づき、工場建設予定地内のうち現状保存の不可能な部分（789.8 m²）を対象とし実施した。

発掘調査は遺構確認面まで重機（0.45 m³バックホー）にて表土掘削を行ない、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、測量・写真撮影の手順で実施した。遺構調査については土層の堆積状況を確認するため、土層ベルトを適宜設定した。なお、出土遺物に関しては、床面直上や遺構に伴うと判断したものはNo遺物とし、他の覆土中の破片等については一括遺物として取り上げた。

遺構の記録には、図面作成はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行なった。記録写真は35mm判モノクロ・リバーサルフィルムと、デジタルカメラの3種類を用いて撮影を実施した。調査区全景撮影についてはドローンでの撮影を実施した。調査経過については以下の通りである。

【調査経過】

- 3月 5日 プレハブ・仮設トイレ・機材搬入。表土掘削開始。
- 3月 6日 人力による遺構調査開始。
- 3月 7日 重機による表土掘削終了。
- 3月 16日 遺構測量開始。
- 4月 28日 ドローンによる調査区全景撮影。市教委による終了確認。
機材撤収。現地での調査終了。

2 整理作業

整理作業は現地調査終了後の5月1日から開始した。出土遺物の断面計測と外面調整の撮影には、従来の手法から3Dスキャナー型三次元計測器（KEYENCE社製、VL-300）による機械計測に切り替えた。誤差1mmの1/1,000という高精度な全点取得が可能で、従来の2次元図化以外の用途にも発展性が見込めるものである。報告書掲載の遺物写真に関してはデジタルカメラを用いて撮影を行った。遺構図はデジタルによる修正・編集作業を行い、報告書の編集に関してはDTPの手法を用いて作業を行った。7月30日に報告書を刊行し、全ての作業を完了した。

IV 基本土層

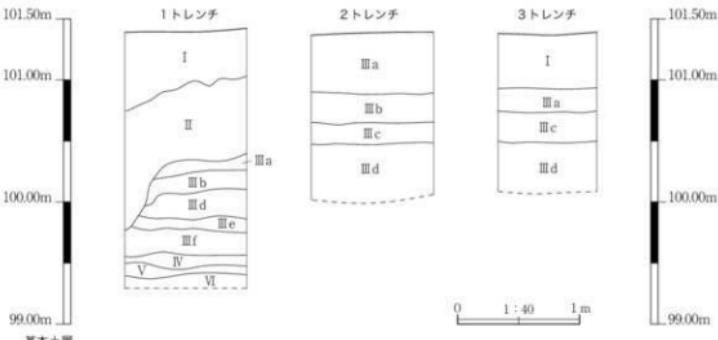
本遺跡の基本土層は調査区北西、中央、南東の3地点において観察を行った（第4図）。I層は現代の整地層、II層はAs-B軽石を含む土層（B混土）である。III層は約1.7万年前の榛名山系の山体崩壊に起因する陣場岩屑なだれによる堆積物の上部にあたる河川性堆積物（相馬ヶ原扇状地堆積物上部）と考えられる。前橋市元総社町付近で確認される「総社砂層」に相当する土層である。本遺跡ではカマドの袖心材に使用されている例がいくつか見られる。IV層は腐植質堆積物層（泥炭層）で黒色の強く縮まる粘質土層である。V層は約1.2万年前に降下した浅間統社軽石（As-Sj）で、1トレンチでは約10cmの堆積が確認できる。VI層はV層と同様に黒色粘質土層（泥炭層）である。なおAs-C軽石を含む黒色土、いわゆる「C黒」と呼称される土層はSZ1の溝覆土上層でのみ確認できる。遺構確認面は表土直下のIII層上面とした。

1トレンチは遺跡西側に流れる井野川に向かって傾斜している地形であるため、確認できる各土層は他と比較して深い。遺跡中央に位置する2トレンチは現代の削平の影響により現地表面がほぼ遺構確認面であった。3トレンチも削平の影響を受けているが2トレンチと比較してやや高い位置で各土層が確認できる。

■

（1）本遺跡から北へ250mの所で2018年に調査された「小八木塚研寺遺跡」（高崎市教育委員会、2018）の土層を参考にして観察を行った。

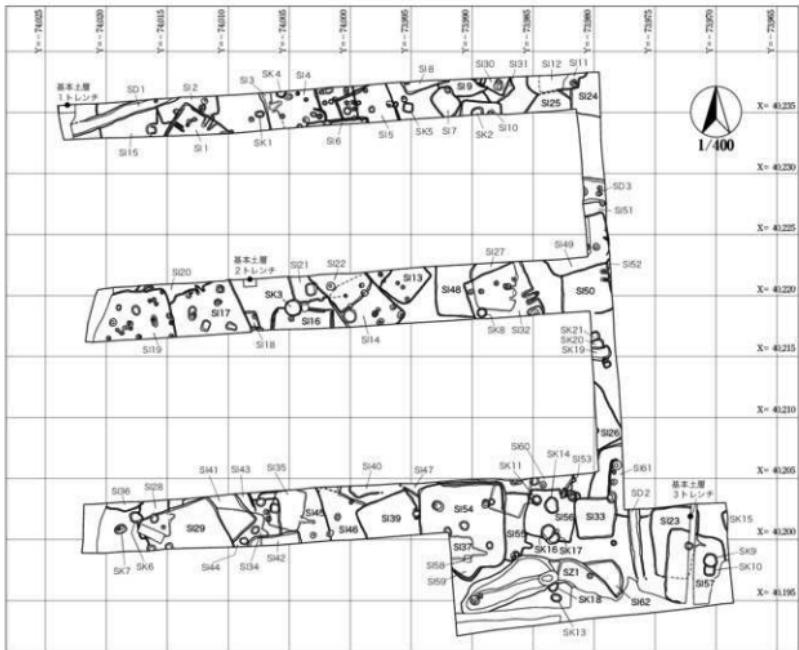
（2）早川 慶 2018 「付録 自然化学分析」『小八木塚研寺遺跡』 高崎市教育委員会



基本土層

- I 表土層
- II 梅灰色土 (10YR5/1) As-B 混土。縋まりやや弱い、粘性やや弱い。
- III 粗馬ヶ原層状堆積物 (上部)。総社砂層相当層。縋まり有り。粘性やや弱い。
- a 明黄褐色土 (10YR6/8) 黄褐色硬塑砂質土。歯分の沈着が見られる。縋まり有り、粘性やや弱い。
- b 黑褐色土 (10YR5/2) 黑黃褐色硬塑砂質土。白色軽石を微量含む。歯分の沈着が見られる。縋まり有り、粘性やや弱い。
- c 梅灰色土 (10YR6/1) タミナ状堆积の砂質土。歯分の沈着が見られる。縋まりやや弱い、粘性弱い。
- d 黑褐色土 (10YR5/2) 黑黃褐色硬塑砂質土。白色軽石を少量含む。縋まり有り、粘性やや弱い。
- e 梅灰色土 (10YR5/1) シート質。縋まりやや弱い、粘性やや弱い。
- f 黑褐色土 (10YR6/2) 砂質土。縋まりやや弱い、粘性弱い。
- IV 黒褐色土 (10YR2/2) 黑褐色粘質土。腐殖質堆積物層 (泥炭層)。縋まりやや強い、粘性強い。
- V 梅灰色土 (10YR4/1) 浅開閉社軽石 (As-Sj)。縋まりやや弱い、粘性弱い。
- VI 黑褐色土 (10YR2/2) 黑褐色粘質土。腐殖質堆積物層 (泥炭層)。縋まりやや強い、粘性強い。

第3図 基本土層



第4図 大八木寺東遺跡全体図

V 遺構と遺物

1 積穴建物跡

SI 1 (第5・22図、第1表、PL. 4・11)

位置 調査区北西 ($X = 40.233 \sim 40.235$, $Y = -74.009 \sim -74.015$) 主軸方向 N-32°-W 規模 東西(451)m、南北(3.08)m、壁高0.53m。床面積(8.07)m² 床面 地山床。カマド前面を中心に若干の硬化が確認できる。カマド 北東壁中央に位置する。両袖には逆位にした土師器甕を心材とし用い、燃焼部中央には石を立て支脚としている。煙道は住居外へと短く突き出す。主柱穴 1基確認(SPI22)。住居内施設 南東隅(調査区壁際)に貯蔵穴を確認。北西壁に向かって直交方向へと延びる溝(根太を設置したと考えられる)が検出された。重複 SI 2と重複。本遺構はSI 2より新しい。掘り方 地山床が基本であるが、壁際に浅い窪みが見られる。出土遺物 須恵器甕(1)、土師器壺(2~6)・高壺(7)・瓶(8)・甕(9)、石製模造品(10~15)を図示。土師器が主体。時期 出土遺物の傾向や覆土中にHr-FAのブロックが混入している事から6世紀前半と推定される。

SI 2 (第5・22図、第1表、PL. 4・11)

位置 調査区北西 ($X = 40.233 \sim 40.236$, $Y = -74.010 \sim -74.016$) 主軸方向 N-6°-W 規模 東西4.98m、南北(1.97)m、壁高0.04m。床面積(7.97)m² 床面 地山床。全体的に弱い硬化。カマド 検出されず。主柱穴 検出されず。重複 SI 1と重複。本遺構はSI 1より古い。掘り方 全体的に浅い凸凹が広がる。出土遺物 硝子玉(1)、石製模造品(2・3)を図示。他に土師器が少量出土。時期 出土遺物の傾向や重複関係から6世紀初頭と推定される。

SI 3 (第6・22図、第1表、PL. 4・11)

位置 調査区北西 ($X = 40.233 \sim 40.236$, $Y = -74.005 \sim -74.010$) 主軸方向 N-67°-E 規模 東西(3.12)m、南北(3.07)m、壁高0.12m。床面積(8.31)m² 床面 地山床。カマド前面に若干の硬化が確認できる。カマド 東壁に位置する。両袖の心材にⅢ層土の切り石を用いている。燃焼部やや奥に支脚石が立つ。燃焼部から煙道へ向かって緩やかに上る。主柱穴 確認できず。重複 SI 4と重複。本遺構はSI 4より新しい。出土遺物 土師器壺(1~3)・甕(4)を図示。土師器が主体。時期 出土遺物の傾向や重複から6世紀前半と推定される。

SI 4 (第6・7・22・23図、第1表、PL. 5・11)

位置 調査区北 ($X = 40.233 \sim 40.237$, $Y = -73.999 \sim -74.007$) 主軸方向 N-10°-W 規模 東西7.43m、南北(3.09)m、壁高0.24m。床面積(20.71)m² 床面 地山床。部分的に若干の硬化が確認できる。炉確認できず。主柱穴 SP 3~5の3基確認。楕円状の平面を呈する。重複 SI 3・5・6と重複。本遺構はSI 3・5・6より古い。出土遺物 高壺(1)・甕(2・3)・壺(4)を図示。(4)は2段の複合口縁を持つ。弥生土器が主体。高壺は覆土上層から出土しており、古墳時代中期頃の混入遺物と考えられる。時期 出土遺物の傾向と重複関係から弥生時代後期と推定される。

SI 5 (第6・7・23図、第1表、PL. 5・11)

位置 調査区北 ($X = 40.234 \sim 40.237$, $Y = -73.995 \sim -74.001$) 主軸方向 N-21°-W 規模 東西4.45m、南北(3.28)m、壁高0.13m。床面積(11.79)m² 床面 地山床。部分的に若干の硬化が確認できる。力

マド 確認できず。 重複 SI 4・6と重複。本遺構がSI 4・6より新しい。 出土遺物 土師器の小片が主体。
時期 出土遺物の傾向と重複関係から6世紀前半と推定される。

SI 6 (第6・7図、PL. 5)

位置 調査区北 (X=40.233 ~ 40.234, Y = - 73.998 ~ - 74.003) 主軸方向 N - 5° - W 規模 東西 5.14 m、南北 (0.50) m、壁高 0.22 m。 床面積 (2.12) m² 床面 地山床。硬化面は確認できない。 爐 確認されず。重複 SI 4・5と重複。(古) SI 4 → 本遺構 → SI 5 (新) 出土遺物 弥生土器が少量出土。 時期 出土遺物の傾向と重複関係から弥生時代後期と推定される。

SI 7 (第7・8・23図、第1表、PL. 5・11)

位置 調査区北 (X=40.234 ~ 40.237, Y = - 73.990 ~ - 73.993) 主軸方向 N - 39° - W 規模 東西 1.86 m、南北 2.47 m、壁高 0.29 m。 床面積 (4.27) m² 床面 地山床。顕著な硬化は確認できない。 カマド なし。出土遺物 須恵器壺 (1)、土師器壺 (2) を図示。土師器が主体。 時期 出土遺物の傾向から6世紀前半と推定される。

SI 8 (第7・8・23図、第1表、PL. 5・11)

位置 調査区北 (X=40.236 ~ 40.237, Y = - 73.991 ~ - 73.995) 主軸方向 N - 28° - W 規模 東西 (3.76) m、南北 (1.26) m、壁高 0.25 m。 床面積 (2.32) m² 床面 地山床 カマド 確認できず。 重複 SI 9 と重複。本遺構がSI 9より古い。 出土遺物 土師器壺 (1) を図示。土師器が主体。 時期 出土遺物の傾向と重複関係から7世紀末から8世紀初頭と推定される。

SI 9 (第7・8・23図、第1表、PL. 5・11)

位置 調査区北東 (X=40.236 ~ 40.237, Y = - 73.988 ~ - 73.993) 主軸方向 N - 87° - E 規模 東西 3.56 m、南北 (1.45) m、壁高 0.11 m。 床面積 (3.83) m² 床面 地山床。カマド前面に硬化面が広がる。 カマド 東壁東南隅に位置。燃焼部は浅く平坦、煙道部へ向かって緩やかに上がる。 主柱穴 確認できず。 重複 SI 9・30・31と重複。本遺構がSI 30・31より新しい。 出土遺物 須恵器壺 (1) を図示。 時期 出土遺物の傾向と重複関係から9世紀と推定される。

SI 10 (第7・8・23図、第1表、PL. 5・11・12)

位置 調査区北東 (X=40.234 ~ 40.236, Y = - 73.987 ~ - 73.991) 主軸方向 N - 2° - E 規模 東西 3.43 m、南北 (1.27) m、壁高 0.25 m。 床面積 (3.58) m² 床面 部分的に若干の硬化面が確認できる。 カマド 確認できず。 重複 SK 2と重複。本遺構がSK 2より古い。 出土遺物 土師器壺 (1~3)・鉢 (4)・壺 (5) を図示。 時期 出土遺物の傾向から6世紀後半と推定される。

SI 11 (第8・23図、第1表、PL. 5・12)

位置 調査区北東 (X=40.236 ~ 40.238, Y = - 73.982 ~ - 73.985) 主軸方向 N - 86° - E 規模 東西 5.01 m、南北 (2.28) m、壁高 0.31 m。 床面積 (5.90) m² 床面 地山床 カマド 東壁に位置。貯蔵穴 カマド南側に貯蔵穴を確認。 重複 SI 12・24・25と重複。本遺構はSI 12より古く、SI 24・25より新しい。 出土遺物 須恵器皿 (1)・壺 (2)・土師器壺 (1) を図示。 時期 出土遺物の傾向と重複関係から9世紀前半と推定される。

SI12 (第8・23・24図、第1表、PL.5・12)

位置 調査区北東 (X=40.236 ~ 40.238, Y = - 73.980 ~ - 73.985) 主軸方向 N - 82° - E 規模 東西2.39m、南北(1.42)m、壁高0.08m。床面積 (2.81) m² 床面 部分的に硬化面が確認できる。カマド 東壁に位置。カマド前面に灰、炭化物、焼土粒が広がる。重複 SI11と重複。本遺構はSI11より新しい。出土遺物 須恵器坏 (1・2)、瓦 (3) を図示。土師器・須恵器小片が少量出土。時期 出土遺物の傾向と重複関係から9世紀中頃と推定される。

SI13 (第9図、PL. 5)

位置 調査区中央 (X=40.229 ~ 40.222, Y = - 73.993 ~ - 73.997) 主軸方向 N - 46° - W 規模 北東 - 南西 3.66 m、北西 - 南東 2.81 m、壁高 0.07 m。床面積 (8.18) m² 床面 地山床 炉 確認できず。出土遺物 弥生土器が少量出土。時期 出土遺物の傾向から弥生時代後期と推定される。

SI14 (第9・10図、PL. 6)

位置 調査区中央 (X=40.217 ~ 40.221, Y = - 73.995 ~ - 74.001) 主軸方向 N - 46° - W 規模 北東 - 南西 4.09 m、南東 - 北西 (5.51) m、壁高 0.26 m。床面積 (17.53) m² 床面 地山床 炉 確認できず。重複 SI21・22と重複。本遺構はSI21より古く、SI22より新しい。出土遺物 弥生土器が少量出土。時期 出土遺物の傾向と重複関係から弥生時代後期と推定される。

SI15 (第5図、PL. 6)

位置 調査区北西 (X=40.232 ~ 40.235, Y = - 74.015 ~ - 74.020) 主軸方向 N - 88° - W 規模 東西 4.98 m、南北 (2.89) m、壁高 0.12 m。床面積 (14.02) m² 床面 カマド前面に若干の硬化面が確認できる。カマド 東壁に位置。両袖にはⅢ層土の切り石を心材とし、構築材には灰白色の粘質土を含む土を用いている。燃焼部内に総社紗層を角柱状に加工した支脚が残存。燃焼部は住居外へと張り出さず住居内に収まる。重複 SD 1と重複。本遺構がSD 1より古い。掘り方 浅い凸凹状の掘り込みに暗褐色土が充填されている。出土遺物 土師器の小片が主体。時期 出土遺物の傾向と重複関係から6世紀と推定される。

SI16 (第9・10・24図、第1表、PL. 6・12)

位置 調査区中央 (X=40.217 ~ 40.219, Y = - 74.001 ~ - 74.006) 主軸方向 N - 2° - E 規模 東西 5.17 m、南北 (1.70) m、壁高 0.15 m。床面積 (8.50) m² 床面 地山床 カマド 確認できず。重複 SK 3と重複。本遺構がSK 3より古い。掘り方 部分的に浅い凸凹状の掘り込みが見られる。出土遺物 土師器壺 (1) を図示。土師器の小片が主体。時期 出土遺物の傾向から6世紀と推定される。

SI17 (第10・11・24・25図、第1表、PL. 6・12・13・14)

位置 調査区西 (X=40.216 ~ 40.221, Y = - 74.008 ~ - 74.014) 主軸方向 N - 25° - W 規模 東西 6.31 m、南北 (5.03) m、壁高 0.30 m。床面積 (22.80) m² 床面 地山床 カマド 北壁中央に位置。両袖の心材に川原石を使用している。主柱穴 SP33・36 の2基確認。貯蔵穴 ピット状の貯蔵穴を確認 (SP35)。重複 SI18 ~ 20と重複。本遺構がSI18 ~ 20より新しい。掘り方 部分的に浅い凸凹状の掘り込みが見られる。出土遺物 土師器壺 (1 ~ 10)・壺 (11)・瓶 (12・13)・壺 (14 ~ 16) を図示。カマド前面での出土量が多く、そのほとんどが煮沸具である。土師器が主体。時期 出土遺物の傾向と重複関係から6世紀後半と推定される。

SI18 (第10・11図、PL. 6)

位置 調査区西 (X=40.217 ~ 40.218, Y = - 74.007 ~ - 74.008) 主軸方向 N - 16° - W 規模 東西 (0.77) m、南北 (1.40) m、壁高 0.18 m。床面積 (1.07) m² 床面 地山床 カマド 確認できず。重複 SI17 と重複。本遺構は SI17 より古い。出土遺物 土師器の小片が少量出土。時期 出土遺物の傾向と重複関係から6世紀前半と推定される。

SI19 (第10・11・25図、第1表、PL. 6・12)

位置 調査区西 (X=40.216 ~ 40.220, Y = - 74.014 ~ - 74.021) 主軸方向 N - 15° - W 規模 東西 (6.61) m、南北 (4.00) m、壁高 0.33 m。床面積 (22.57) m² 床面 地山床 炉 中央付近に位置。0.81×0.67 m の隅丸方形を呈する。底面に顯著な被熱の痕跡は見られない。主柱穴 SP42・44 の2基確認。重複 SI17・20 と重複。本遺構は SI17・20 より古い。掘り方 部分的に浅い凸凹状の掘り込みが見られる。出土遺物 台壺壺 (1) を図示。弥生土器が主体。時期 出土遺物の傾向と重複関係から弥生時代後期と推定される。

SI20 (第10図・PL. 6)

位置 調査区西 (X=40.219 ~ 40.221, Y = - 74.011 ~ - 74.017) 主軸方向 N - 25° - E 規模 東西 (6.12) m、南北 (1.93) m、壁高 0.17 m。床面積 (3.63) m² 床面 地山床 炉 確認できず。重複 SI17・19 と重複。本遺構は SI17 より古く、SI19 より新しい。掘り方 部分的に浅い凸凹状の掘り込みが見られる。出土遺物 弥生土器の小片を少量出土。時期 出土遺物の傾向と重複関係から弥生時代後期と推定される。

SI21 (第9・10・25図、第1表、PL. 6・12)

位置 調査区中央 (X=40.219 ~ 40.221, Y = - 74.000 ~ - 74.005) 主軸方向 N - 10° - W 規模 東西 (2.56) m、南北 (2.26) m、壁高 0.17 m。床面積 (4.45) m² 床面 地山床 カマド 確認できず。重複 SI14・22 と重複。本遺構は SI14 より古く、SI22 より新しい。掘り方 部分的に浅い凸凹状の掘り込みが見られる。出土遺物 土師器壺 (1)・壺 (2・3) を図示。時期 出土遺物の傾向と重複関係から6世紀後半と推定される。

SI22 (第9・10図、PL. 6)

位置 調査区中央 (X=40.218 ~ 40.221, Y = - 73.998 ~ - 74.003) 主軸方向 N - 43° - W 規模 北東 - 南西 3.71 m、南西 - 北東 (4.43) m、壁高 0.29 m。床面積 (4.07) m² 床面 地山床 カマド 確認できず。重複 SI14・21 と重複。本遺構は SI14・22 より古い。出土遺物 弥生土器の小片を少量出土。時期 出土遺物の傾向と重複関係から弥生時代後期と推定される。

SI23 (第11・12・25図、第1表、PL. 6・7・13)

位置 調査区南東 (X=40.196 ~ 40.202, Y = - 73.970 ~ - 73.975) 主軸方向 N - 86° - W 規模 東西 3.97 m、南北 (5.91) m、壁高 0.26 m。床面積 20.20 m² 床面 地山床。カマド前面から中央部かけて若干の硬化面が確認できる。カマド 東壁に位置。燃焼部内には灰が多く堆積している。燃焼部奥壁から煙道部かけて壁面の焼土化が顯著である。重複 SI57 と重複。本遺構は SI57 より新しい。出土遺物 須恵器壺 (1) を図示。須恵器・土師器の小片が出土。時期 出土遺物の傾向と重複関係から9世紀と推定される。

SI24 (第8・25図、第1表、PL. 5・13)

位置 調査区北東 (X=40.234 ~ 40.238, Y = - 73.979 ~ - 73.981) 主軸方向 N - 3° - W 規模 東西 (2.42) m、南北 (3.68) m、壁高 0.24 m。床面積 (7.14) m² 床面 地山床 カマド 確認できず。重複 SI11・25と重複。本遺構は SI11 より古く、SI25 より新しい。出土遺物 土師器壊 (1) を図示。時期 出土遺物の傾向と重複関係から8世紀前半と推定される。

SI25 (第8・25図、第1表、PL. 5・13・14)

位置 調査区北東 (X=40.234 ~ 40.236, Y = - 73.981 ~ - 73.985) 主軸方向 N - 31° - E 規模 北東 - 南西 (2.97) m、南東 - 北西 (2.79) m、壁高 0.13 m。床面積 (4.86) m² 床面 地山床 カマド 確認できず。重複 SI11・24 と重複。本遺構は SI11・24 より古い。掘り方 全体的に凸凹上の掘り込みが確認できる。出土遺物 土師器壊 (1) ・瓶 (2) を図示。土師器が少量出土。時期 出土遺物の傾向と重複関係から6世紀初頭と考えられる。

SI26 (第12・25図、第1表、PL. 7・13)

位置 調査区西 (X=40.207 ~ 40.213, Y = - 73.977 ~ - 73.980) 主軸方向 N - 31° - W 規模 東西 (2.58) m、南北 (4.99) m、壁高 0.28 m。床面積 (7.32) m² 床面 地山床 炉 確認できず。出土遺物 壺 (1) を図示。弥生土器が少量出土。時期 出土遺物の傾向から弥生時代後期と推定される。

SI27 (第12・13・25図、第1表、PL. 7・13)

位置 調査区中央 (X=40.219 ~ 40.222, Y = - 73.986 ~ - 73.990) 主軸方向 N - 90° - E 規模 東西 3.58 m、南北 (3.98) m、壁高 0.24 m。床面積 (13.01) m² 床面 地山床 カマド 東壁に位置。両袖の心材に総社砂層の切り石を使用している。同じ切り石が本遺構中央部で崩壊した状態で確認できた。焚口天井の石材であった可能性が考えられる。燃焼部はほぼ平坦で、奥壁で煙道部へと上がる。重複 SI32・48 と重複。本遺構は SI32・48 より新しい。出土遺物 土師器壊 (1) ・壺 (2) ・瓶か (3) 、石製模造品 (4・5) を図示。土師器の小片が主体。時期 出土遺物の傾向と重複関係から5世紀末から6世紀初頭と推定される。

SI28 (第14・26図、第1表、PL. 7・14)

位置 調査区南西 (X=40.200 ~ 40.203, Y = - 74.014 ~ - 74.017) 主軸方向 N - 83° - W 規模 東西 2.60 m、南北 (3.00) m、壁高 0.11 m。床面積 (7.85) m² 床面 中央部に若干の硬化が認められる。カマド東壁中央に位置。両袖の心材に総社砂層の切り石を用いている。燃焼部は浅く窪む。重複 SI29・36 と重複。本遺構は SI29・36 より新しい。掘り方 全体的に浅い凸凹上の掘り込みが確認できる。出土遺物 須恵器壊 (1) 、土師器壺 (2) を図示。時期 出土遺物の傾向と重複関係から9世紀前半と推定される。

SI29 (第14図、PL. 9)

位置 調査区南西 (X=40.235 ~ 40.203, Y = - 74.009 ~ - 74.017) 主軸方向 N - 29° - W 規模 東西 6.21 m、南北 (4.76) m、壁高 0.26 m。床面積 (0.41) m² 床面 地山床 炉 確認できず。重複 SI29・34・41 と重複。本遺構は SI28 より古く、SI34・41 より新しい。出土遺物 土師器の小片が主体。時期 出土遺物の傾向と重複関係から6世紀と推定される。

SI30 (第16・26図、第1表、PL. 7・14)

位置 調査区北東 (X=40.236 ~ 40.237, Y = - 73.986 ~ - 73.989) 主軸方向 N - 27° - E 規模 北東 - 南西 (2.88) m、南東 - 北西 (1.72) m、壁高 0.07 m。床面積 (2.65) m² 床面 地山床 カマド 確認できず。重複 SI 9・31 と重複。本遺構は SI 9 より古く、SI31 より新しい。出土遺物 土師器壊 (1)、石製品模造品 (2・3) 時期 出土遺物の傾向と重複関係から 5 世紀末から 6 世紀初頭と考えられる。

SI31 (第16図、第1表、PL. 7・14)

位置 調査区北東 (X=40.235 ~ 40.237, Y = - 73.986 ~ - 73.989) 主軸方向 N - 35° - W 規模 北東 - 南西 2.41 m、南東 - 北西 (2.87) m、壁高 0.18 m。床面積 (1.74) m² 床面 地山床 爐 確認できず。重複 SI 9・30 と重複。本遺構は SI 9・30 より古い。出土遺物 土師器の小片が主体。時期 出土遺物の傾向と重複関係から 3 世紀と考えられる。

SI32 (第13・26図、第1表、PL. 7・8・14)

位置 調査区西 (X=40.218 ~ 40.222, Y = - 73.984 ~ - 73.990) 主軸方向 N - 66° - W 規模 北東 - 南西 5.28 m、南西 - 北西 (4.76) m、壁高 0.16 m。床面積 (21.25) m² 床面 地山床 カマド 北東壁やや南よりに位置。構築材に暗褐色の粘質土を用いている。燃焼部は平坦で煙道部に向かって緩やかに上がる。支柱穴 2 基確認 (SP64・66)。貯蔵穴 南東隅で確認。周間に浅い段を持つ事から蓋が使用されていたと考えられる。重複 SI27・48 と重複。本遺構は SI27 より古く、SI48 より新しい。出土遺物 カマド前面から出土した土師器壊 (1・2) を図示。土師器が主体。時期 出土遺物の傾向と重複関係から 6 世紀前半と推定される。

SI33 (第16・26図、第1表、PL.10・14)

位置 調査区北東 (X=40.199 ~ 40.204, Y = - 73.978 ~ - 73.981) 主軸方向 N - 4° - W 規模 東西 3.41 m、南北 3.27 m、壁高 0.19 m。床面積 10.51 m² 床面 地山床 カマド なし。重複 SI56・61 と重複。本遺構は SI61 より古く、SI56 より新しい。出土遺物 土師器壊 (1)、石製品模造品 (2~4) を図示。時期 出土遺物の傾向と重複関係から 7 世紀前半と推定される。

SI34 (第14・15・26図、第1表、PL. 8・14)

位置 調査区南西 (X=40.200 ~ 40.202, Y = - 74.006 ~ - 74.010) 主軸方向 N - 83° - W 規模 東西 (4.05) m、南北 (3.09) m、壁高 0.14 m。床面積 (8.45) m² 床面 カマド前面に若干の硬化が認められる。カマド 東壁に位置。燃焼部は平坦で灰と焼土粒が広がる。燃焼部中央には総社砂層を円錐状に加工した支脚が立つ。重複 SI29・34・41 ~ 44 と重複。本遺構はこれらより新しい。掘り方 浅い凸凹状の掘り込みが見られる。出土遺物 須恵器高台付壊 (1・2)、土師器壊 (3)、土鍤 (4) を図示。時期 出土遺物の傾向と重複関係から 9 世紀後半と推定される。

SI35 (第15・26図、第1表、PL. 8・14)

位置 調査区南西 (X=40.200 ~ 40.204, Y = - 74.002 ~ - 74.006) 主軸方向 N - 76° - W 規模 東西 2.71 m、南北 3.36 m、壁高 0.15 m。床面積 (8.73) m² 床面 カマド前面に若干の硬化が認められる。カマド 東壁に位置。カマド前面に総社砂層の切り石を 6 点確認。被熱の痕跡や灰・炭化物等の付着からカマドに組み込まれていた石材と考えられ、取り外してカマド前面に放置された状況であると推測される。燃焼部から煙道部に

かけては焼土化が良好。重複 SI44・45と重複。本遺構はSI44・45より新しい。掘り方 浅い凸凹状の掘り込みが見られる。出土遺物 土師器坏（1）、羽釜（2）を図示。時期 出土遺物の傾向と重複関係から9世紀末から10世紀初頭と推定される。

SI36（第14図、PL. 9）

位置 調査区南西（X=40.202～40.203、Y = -74.016～-74.019） 主軸方向 N - 1° - E 規模 東西（3.09）m、南北（0.77）m、壁高0.15m。床面積（1.70）m² 床面 地山床 カマド 確認できず。重複 SI28と重複。本遺構はSI28より古い。出土遺物 土師器の小片が主体。時期 出土遺物の傾向と重複関係から8世紀と推定される。

SI37（第16・26図、第1表、PL. 8・14）

位置 調査区南（X=40.198～40.200、Y = -73.988～-73.991） 主軸方向 N - 88° - W 規模 東西（3.20）m、南北1.91m、壁高0.20m。床面積（3.07）m² 床面 カマド前面に硬化が認められる。カマド 東壁で確認。カマド前面には灰が広がりカマドに組み込まれていたと考えられる石材が置かれている。燃焼部から煙道部へ向かって緩やかに上がる。重複 SI54と重複。本遺構はSI54より新しい。出土遺物 石製模造品（1）を図示。時期 出土遺物の傾向と重複関係から9世紀と推定される。

SI38（第17・26図、第1表、PL. 8・9・14）

位置 調査区南（X=40.201～40.205、Y = -73.984～-73.988） 主軸方向 N - 72° - W 規模 東西286m、南北（3.51）m、壁高0.19m。床面積（8.66）m² 床面 カマド前面に硬化が認められる。カマド 東壁に位置。カマド前面に灰と炭化物が広がる。燃焼部は方形状に住居壁外へ突き出し、煙道部が短く伸びる。燃焼部から煙道部にかけての壁面が良好に焼土化している。重複 SI54～56・60と重複。本遺構はこれらより新しい。出土遺物 かわらけ状の土師質の坏（1～3）を図示。3はカマド燃焼部から出土している。時期 出土遺物の傾向と重複関係から11世紀後半と推定される。

SI39（第17・27図、第1表、PL. 9・14）

位置 調査区南（X=40.200～40.204、Y = -73.994～-73.999） 主軸方向 N - 64° - E 規模 東西4.79m、南北394m、壁高0.20m。床面積（13.43）m² 床面 地山床 カマド 東壁に位置。両袖とも灰黄褐色粘質土を用いて構築している。燃焼部は床面より一段低く土坑状を呈し、底面には灰・炭化物が堆積する。重複 SI46・54と重複。本遺構はSI54より古く、SI46より新しい。出土遺物 土師器坏（1～3）を図示。土師器が主体。時期 出土遺物の傾向と重複関係から7世紀と推定される。

SI40（第17図、PL. 9）

位置 調査区南（X=40.203～40.204、Y = -73.997～-73.400） 主軸方向 N - 11° - W 規模 東西（2.70）m、南北（0.91）m、壁高0.06m。床面積（3.03）m² 床面 地山床 カマド 確認できず。出土遺物 土師器が少量出土。時期 出土遺物の傾向から6世紀以前と推定される。

SI41（第14図、PL. 9）

位置 調査区南西（X=40.199～40.203、Y = -74.007～-74.013） 主軸方向 N - 33° - W 規模 北東-南西（4.57）m、南東-北西（3.80）m、壁高0.21m。床面積（17.16）m² 床面 地山床 カマド 確認できず。

重複 SI29・34・43・44と重複。本遺構はSI29・34より古く、SI43・44より新しい。出土遺物 土師器の小片が主体。時期 出土遺物の傾向と重複関係から6世紀と推定される。

SI42（第15・27図、第1表、PL 9・14）

位置 調査区南西（X=40.199～40.200、Y = - 74.004～- 74.008） 主軸方向 N - 10° - W 規模 東西4.40 m、南北(1.01) m、壁高0.12 m。床面積(3.57) m² 床面 地山床 カマド 確認できず。重複 SI34・44・45と重複。本遺構はSI34より古く、SI44・45より新しい。出土遺物 須恵器蓋(1)、羽口(2)を図示。土師器が主体。時期 出土遺物の傾向と重複関係から6世紀後半と推定される。

SI43（第15図、PL 9）

位置 調査区南西（X=40.202～40.203、Y = - 74.007～- 74.009） 主軸方向 N - 20° - W 規模 東西(0.98) m、南北(1.81) m、壁高0.09 m。床面積(1.42) m² 床面 地山床 カマド 確認できず。重複 SI29・34・41・44と重複。本遺構はSI29・34・41より古く、SI44より新しい。出土遺物 土師器が少量出土。時期 出土遺物の傾向と重複関係から6世紀と推定される。

SI44（第15・16・27図、第1表、PL 9・14）

位置 調査区南西（X=40.199～40.203、Y = - 74.005～- 74.009） 主軸方向 N - 8° - W 規模 東西(3.98) m、南北(3.80) m、壁高0.09 m。床面積(5.33) m² 床面 地山床 炉 平面形状は楕円状。0.58×0.67 m。浅く窪む。焼土・炭化物は確認できない。重複 SI29・34・35・41～45と重複。本遺構はSI29・34・35・41～43より古く、45より新しい。出土遺物 石鍤(1)を図示。土師器が少量出土。時期 出土遺物の傾向と重複関係から6世紀と推定される。

SI45（第15・16図、PL 9）

位置 調査区南西（X=40.199～40.204、Y = - 74.001～- 74.007） 主軸方向 N - 16° - W 規模 東西4.79 m、南北(4.49) m、壁高0.04 m。床面積(7.99) m² 床面 地山床 カマド 確認できず。重複 SI35・42・44・46と重複。本遺構はSI35・42・44より古く、SI46より新しい。出土遺物 土師器が少量出土。時期 出土遺物の傾向と重複関係から6世紀と推定される。

SI46（第15・16図、第1表、PL 9・15）

位置 調査区南（X=40.199～40.204、Y = - 73.998～- 74.002） 主軸方向 N - 32° - E 規模 東西(4.02) m、南北(3.92) m、壁高0.24 m。床面積(10.92) m² 床面 地山床 重複 SI39・45と重複。本遺構はSI39・45より古い。出土遺物 壺(1)を図示。弥生土器が少量出土。時期 出土遺物の傾向と重複関係から弥生時代後期と推定される。

SI47（第17図）

位置 調査区南（X=40.203～40.204、Y = - 73.992～- 73.995） 主軸方向 N - 40° - E 規模 東西(2.82) m、南北(1.55) m、壁高0.13 m。床面積(1.50) m² 床面 地山床 重複 SI54と重複。本遺構はSI54より古い。出土遺物 土師器が少量出土。時期 出土遺物の傾向と重複関係から6世紀と推定される。

SI48 (第 13 図)

位置 調査区中央 (X=40.218 ~ 40.222, Y = - 73.989 ~ - 73.992) 主軸方向 N - 6° - E 規模 東西 (3.37) m、南北 (4.35) m、壁高 0.08 m。 床面積 (11.58) m² 床面 地山床 重複 SI27・32 と重複。本遺構は SI27・32 より古い。 出土遺物 弥生土器が少量出土。 時期 出土遺物の傾向と重複関係から弥生時代後期と推定される。

SI49 (第 18・27 図、第 1 表、PL. 9・15)

位置 調査区西 (X=40.221 ~ 40.226, Y = - 73.978 ~ - 73.984) 主軸方向 N - 74° - E 規模 東西 5.67 m、南北 4.15 m、壁高 0.05 m。 床面積 (11.18) m² 床面 地山床 カマド 確認できず。 重複 SI50～52 と重複。本遺構は SI51 より古く、SI50・52 より新しい。 出土遺物 土師器壺 (1)、石製品 (2、勾玉か) を図示。土師器が少量出土。 時期 出土遺物の傾向と重複関係から 8 世紀と推定される。

SI50 (第 18 図、PL. 9)

位置 調査区西 (X=40.218 ~ 40.222, Y = - 73.978 ~ - 73.982) 主軸方向 N - 83° - E 規模 東西 3.95 m、南北 (3.75) m、壁高 0.08 m。 床面積 (14.04) m² 床面 地山床 カマド 東壁に位置。 総社砂層ブロックを含んだ粘質土で構築されている。燃焼部は平坦。 重複 SI49・51・52 と重複。本遺構は SI49・51・52 より古い。 出土遺物 土師器壺 (1)、石製模造品 (2・3) を図示。土師器が少量出土。 時期 出土遺物の傾向と重複関係から 6 世紀後半と推定される。

SI51 (第 17・27 図、第 1 表、PL. 9・15)

位置 調査区西 (X=40.223 ~ 40.226, Y = - 73.978 ~ - 73.980) 主軸方向 N - 87° - W 規模 東西 (1.95) m、南北 (4.67) m、壁高 0.03 m。 床面積 (7.30) m² 床面 地山床 カマド 東壁に位置。大部分が調査区外。両袖にⅢ層土の切り石を心材として用いている。燃焼部は平坦。 重複 SI49・52 と重複。 出土遺物 石製模造品 (1・2) を図示。土師器が少量出土。 時期 出土遺物の傾向と重複関係から 8 世紀以降と推定される。

SI52 (第 18・27 図、第 1 表、PL. 9・15)

位置 調査区西 (X=40.220 ~ 40.222, Y = - 73.978 ~ - 73.980) 主軸方向 不明 規模 東西 (0.25) m、南北 (3.00) m、壁高 0.05 m。 床面積 (0.49) m² 床面 地山床 重複 SI49～51 と重複。本遺構は SI49・51 より古く、SI50 より新しい。 出土遺物 土師器壺 (1)・甕 (2) を図示。 時期 出土遺物の傾向と重複関係から 6 世紀末から 7 世紀初頭と推定される。

SI53 (第 19・27 図、第 1 表、PL. 10・15)

位置 調査区南 (X=40.203 ~ 40.205, Y = - 73.981 ~ - 73.982) 主軸方向 N - 80° - W 規模 東西 (0.47) m、南北 (1.28) m、壁高 0.05 m。 床面積 (0.23) m² 床面 地山床 カマド 東壁に位置。 重複 SI56・60 と重複。本遺構は SI56・60 より古い。 出土遺物 土師器甕 (1) を図示。土師器が少量出土。 時期 出土遺物の傾向と重複関係から 6 世紀と推定される。

SI54 (第 19・27・28 図、第 1 表、PL. 10・15)

位置 調査区南 (X=40.197 ~ 40.205, Y = - 73.987 ~ - 73.994) 主軸方向 N - 89° - E 規模 東西 6.99 m、南北 7.04 m、壁高 0.29 m。 床面積 (40.66) m² 床面 地山床 カマド 東壁中央に位置。袖の痕跡は無く、

燃焼部が浅く窪み焼土粒・炭化物が僅かに確認できるのみである。 主柱穴 3基確認 (SP91・92・94)。3基とも遺構中央に向かって傾斜している。 重複 SI37・38・47・55・58・59と重複。本遺構はSI37・38・55・58より古く、SI47・59より新しい。 出土遺物 須恵器壺（1・2）、土師器壺（3・4）、石錘（5）を図示。土師器・須恵器が多く出土。 時期 出土遺物の傾向と重複関係から7世紀末から8世紀初頭と推定される。

SI55 (第18・19・28図、第1表、PL.10・15)

位置 調査区南 (X=40,198 ~ 40,203, Y = - 73,985 ~ - 73,990) 主軸方向 N - 84° - W 規模 東西 (1.79)m、南北 5.62 m、壁高 0.10 m。 床面積 (9.17) m² 床面 地山床 カマド 東壁南側に位置。燃焼部は浅く窪み焼土粒と炭化物が広がる。カマド構築に使用された切り石（総社輕石）が崩壊した状態で確認された。 重複 SI38・54・56・60、SZ 1と重複。本遺構はSI38より古く、SI54・56・60、SZ 1より新しい。 出土遺物 須恵器小瓶（1）、土師器壺（2・3）を図示。土師器・須恵器が少量出土。 時期 出土遺物の傾向と重複関係から8世紀後半と推定される。

SI56 (第18・19・28図、第1表、PL.10・15)

位置 調査区南 (X=40,199 ~ 40,204, Y = - 73,981 ~ - 73,985) 主軸方向 N - 9° - E 規模 東西 4.12 m、南北 4.03 m、壁高 0.06 m。 床面積 (15.76) m² 床面 地山床 カマド 北壁東側に位置。灰黃褐色の粘質土で構築されており、僅かに袖が残る。燃焼部は床面から僅かに下がり、煙道部へ向かって緩やかに上がる。 貯蔵穴 北東隅で確認。平面プランは方形、ピット状の掘り込みを持つ。 重複 SI33・38・55・60と重複。本遺構はSI33・38・55より古く、SI60より新しい。 出土遺物 土師器壺（1・2）を図示。土師器が主体。 時期 出土遺物の傾向と重複関係から7世紀と推定される。

SI57 (第11図、PL.10)

位置 調査区南東 (X=40,196 ~ 40,202, Y = - 73,969 ~ - 73,974) 主軸方向 N - 82° - W 規模 東西 4.89 m、南北 (5.70) m、壁高 0.32 m。 床面積 (24.18) m² 床面 地山床 カマド 確認できず。南東隅の覆土中から多量の焼土粒が確認できた事から南東壁側（調査区外）に位置すると考えられる。 重複 SI23と重複。本遺構はSI23より古い。 出土遺物 土師器が主体。 時期 出土遺物の傾向と重複関係から9世紀以前と推定される。

SI58 (第18・19・28図、第1表、PL.15)

位置 調査区南 (X=40,198, Y = - 73,990) 主軸方向 不明 規模 東西 (0.56) m、南北 (0.56) m。 床面 不明 カマド 左袖の心材と考えられる石を確認。燃焼部と考えられる場所には土師器壺を逆位にし、周囲には土師器壺片が散乱する。燃焼部底面は焼土粒混じりの灰層が確認できる。状況から東カマドであったと考えられる。 重複 SI54と重複。本遺構はSI54より新しい。 出土遺物 須恵器蓋（1）、土師器壺（2）・壺（3）を図示。 時期 出土遺物の傾向と重複関係から8世紀と推定される。 備考 プラン不明瞭な為、カマドのみの検出である。

SI59 (第19図)

位置 調査区南 (X=40,196 ~ 40,198, Y = - 73,989 ~ - 73,991) 主軸方向 N - 35° - E 規模 東西 (1.72)m、南北 (1.24) m、壁高 0.10 m。 床面積 (1.58) m² 床面 地山床 重複 SI54と重複。本遺構はSI54よ

り古い。 出土遺物 土師器が少量出土。 時期 出土遺物の傾向と重複関係から8世紀以前と推定される。

SI60 (第19図)

位置 調査区南 (X=40.203 ~ 40.205, Y = - 73.981 ~ - 73.988) 主軸方向 N - 27° - E 規模 東西 (5.40) m、南北 (1.88) m、壁高 0.14 m。 床面積 (3.49) m² 床面 地山床 カマド 確認できず。 重複 SI38・53 ~ 56 と重複。本遺構はこれらより古い。 出土遺物 土師器が少量出土。 時期 出土遺物の傾向と重複関係から7世紀以前と推定される。

SI61 (第20・28図、第1表、PL10・15)

位置 調査区南東 (X=40.201 ~ 40.207, Y = - 73.974 ~ - 73.980) 主軸方向 N - 12° - E 規模 東西 6.31 m、南北 5.81 m、壁高 0.03 m。 床面積 (13.04) m² 床面 地山床 カマド 確認できず。 主柱穴 2 基確認 (SP61・107)。柱穴を整ぐ様に浅い溝が走る。 重複 SI23・33 と重複。本遺構は SI23 より古く、SI33 より新しい。 挖り方 壁周間に浅い掘り込みを持つ。 出土遺物 土師器壊 (1) を図示。土師器が主体。 時期 出土遺物の傾向と重複関係から8世紀と推定される。

SI62 (第20図)

位置 調査区南東 (X=40.195 ~ 40.198, Y = - 73.977 ~ - 73.980) 主軸方向 N - 6° - W 規模 東西 (3.10) m、南北 (3.10) m、壁高 0.21 m。 床面積 (4.79) m² 床面 地山床 重複 SZ 1 と重複。本遺構は SZ 1 より新しい。 出土遺物 なし 時期 覆土状況や重複関係から6世紀以降と推定される。

SI63 (第15図)

位置 調査区南 (X=40.195 ~ 40.198, Y = - 73.977 ~ - 73.980) 主軸方向 N - 3° - E 規模 東西 (2.07) m、南北 0.57 m、壁高 0.26 m。 床面積 (0.54) m² 床面 地山床 重複 SI45・46 と重複。本遺構は SI45・46 より古い。 出土遺物 なし 時期 重複関係から弥生時代後期と推定される。 備考 東塀のみ確認。

2 周溝墓

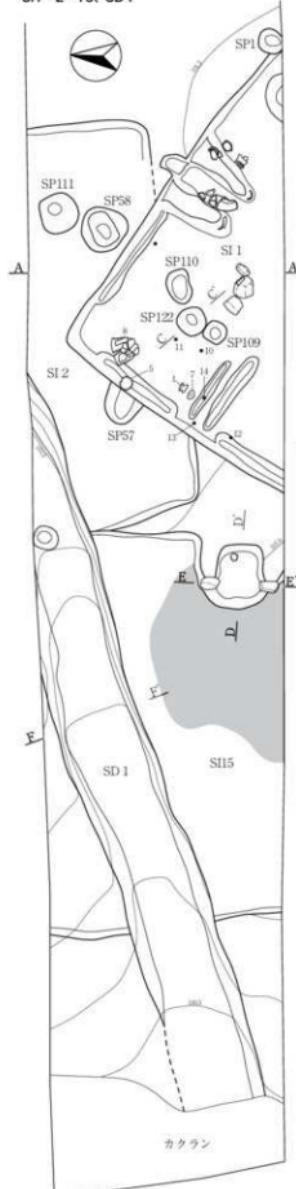
SZ 1 (第21・28図、第1表、PL10・15)

位置 調査区南 (X=40.195 ~ 40.198, Y = - 73.977 ~ - 73.980) 主軸方向 N - 18° - W 規模 全体の約 1/3、北側のみ検出。残り 2/3 は南側の調査区外。全体：東西 (12.53) m、南北 (5.90) m。台部：東西 (6.87) m、南北 (1.93) m。周溝幅 2.00 ~ 3.18 m、深さ 0.05 ~ 0.42 m。 形状 平面形状は隅丸方形を呈する周溝外周に対して、台部外周はやや方形を指向している。周溝の断面形状は全体的に緩い弧状を呈するが、台部側側壁はやや直線的に立ち上がる。底面は北側では長方形状の掘り込みが認められるが、東側ではほぼ平坦である。溝西端は緩やかに立ち上がり溝の連続性が見られないことから、これより西側（方台部の隅部付近。調査区外）が土橋状に掘り残されている可能性が考えられる。 覆土 溝の覆土上層は As-C 軽石を含む黒色土と暗褐色土を主体としている。 重複 SI45・46 と重複。本遺構はこれらより古い。 出土遺物 周溝の覆土上層 (C 黒) から S 字状口縁台付壺 (1) が出土している。他に高杯 (2) を図示。 時期 出土遺物と周溝墓の形態から古墳時代前期と推定される。 備考 出土遺物や平面形状から周溝墓と判断した。

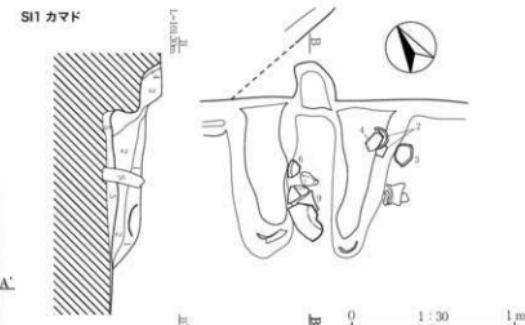
3 溝・土坑・ピット

計測値については「第2図 溝・土坑・ピット計測表」を参照のこと。

SI1・2・15、SD1

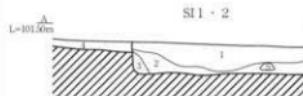


SI1 カマド



SI1 カマド SP6

1. 剥離角土 (10Y3/3-3) 白色鮮石と地土塊を複数含む。緻まり有り。粘性有り。
2. 剥離角土 (10Y3/2-2) 白色鮮石と地土塊と炭化物を少數含む。緻まり有り。粘性有り。
3. 剥離角土 (10Y3/2-2) 地土塊と炭化物を少數含む。緻まり有り。粘性有り。
4. 剥離角土 (10Y3/2-3) 白色鮮石を少量含む。緻まり有り。粘性有り。



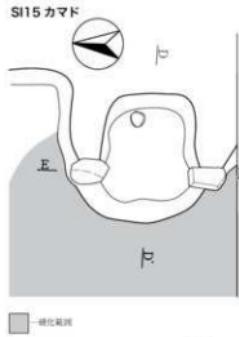
SI1・2 SPA

1. 剥離角土 (10Y3/3-3) 黒褐色土ブロックとHr-A粘土を多量含む。緻まり有り。粘性有り。SI1層土。
2. 黒褐色土 (10Y3/2-2) 黑褐色土ブロックとHr-A粘土を少量含む。緻まり有り。粘性有り。SI1層土。
3. 黑褐色土 (10Y3/2-2) 黑褐色土ブロックを少量含む。緻まり有り。粘性有り。SI1層土。
4. 剥離角土 (10Y3/3-3) 黑褐色土ブロックを少量含む。緻まり有り。粘性有り。SI1層土。

SP122 SPA

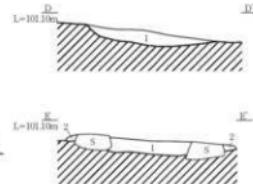
1. 剥離角土 (10Y3/3-3) 植生土と炭化物塊を複数含む。緻まり有り。粘性有り。
2. 剥離角土 (10Y3/3-3) 黑褐色土ブロックを多量含む。緻まり有り。粘性有り。

SI15 カマド



SI15 カマド SPD-E

1. 剥離角土 (10Y3/3-3) 白色と黄土塊を少量含む。緻まり有り。粘性有り。

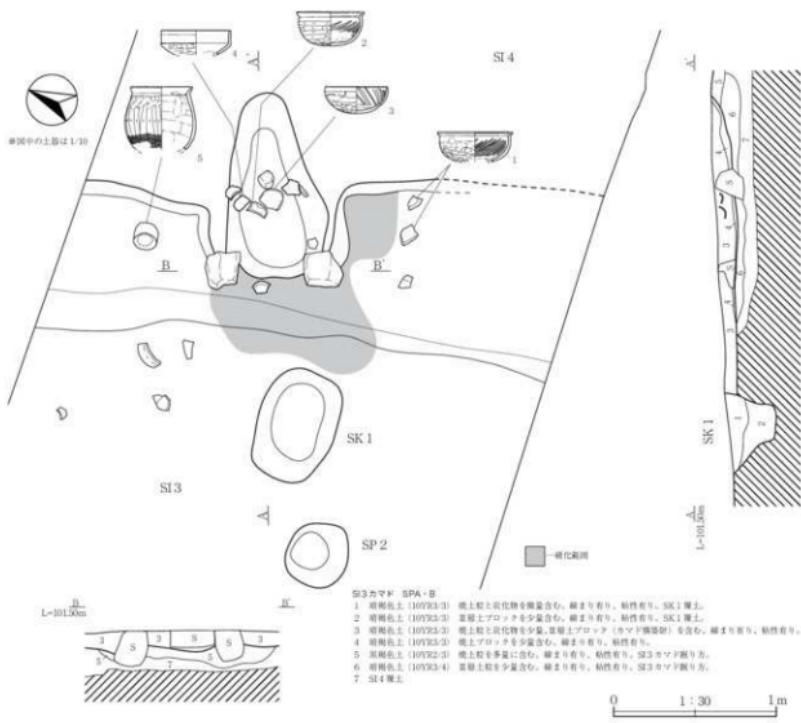


SD1 SPF

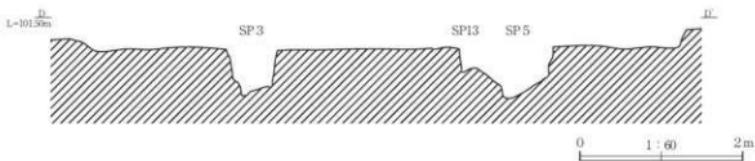
1. 剥離角土 (10Y3/3-3) 砂質土。黑褐色土ブロックを複数含む。緻まり有り。粘性やや弱い。
2. 黄褐色土 (10Y3/5-6) 黑褐色土ブロック主体。緻まりやや弱い。粘性有り。

第5図 SI1・2・15、SD1

SI3、SK1

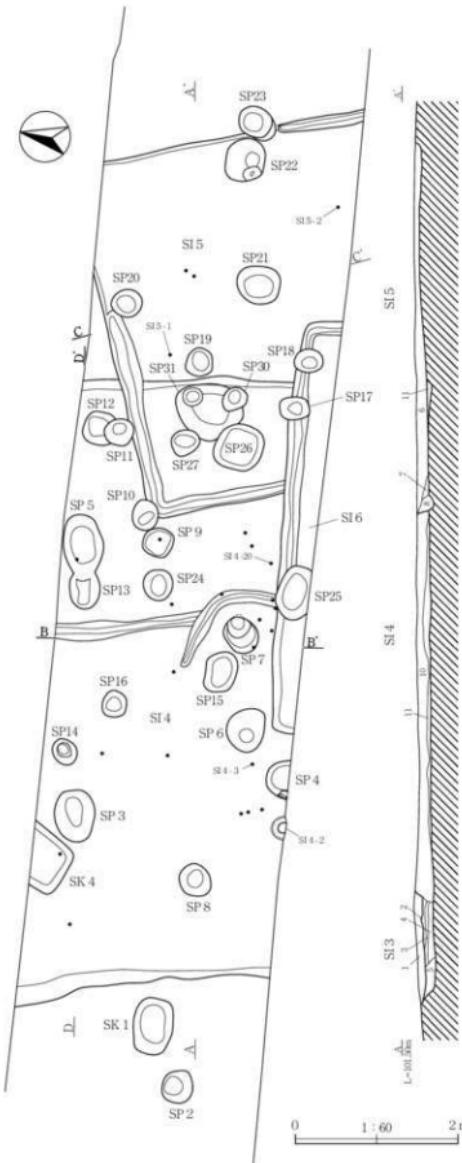


- SI3-6 SPA ~ C**
- 褐色粘土 (10YR3-3) 黒褐色土と硫化物と鉄化物を少量含む。緑色有り。粘性有り。SI3 黒土。
 - 褐色粘土 (10YR3-3) 黒褐色土と硫化物を含む。緑色有り。SI3 黒土。
 - 褐色粘土 (10YR3-3) 黒褐色土と硫化物を含む。緑色有り。SI3 黒土。
 - 褐色粘土 (10YR3-3) 黒褐色土と硫化物を含む。緑色有り。粘性有り。SI3 断り。
 - 褐色粘土 (10YR3-3) 黒褐色土と硫化物を含む。緑色有り。粘性有り。SI3 断り。
 - 褐色粘土 (10YR3-3) 黒褐色土と硫化物を含む。緑色有り。SI3 断り。
 - 褐色粘土 (10YR3-3) 黒褐色土と硫化物を含む。緑色有り。粘性有り。SI3 黒土。
 - 褐色粘土 (10YR3-3) 黒褐色土と硫化物を含む。緑色有り。粘性有り。SI3 黒土。
 - 褐色粘土 (10YR3-3) 黒褐色土と硫化物を含む。緑色有り。粘性有り。SI3 黒土。
 - 褐色粘土 (10YR3-3) 黒褐色土と硫化物を含む。緑色有り。粘性有り。SI3 黒土。

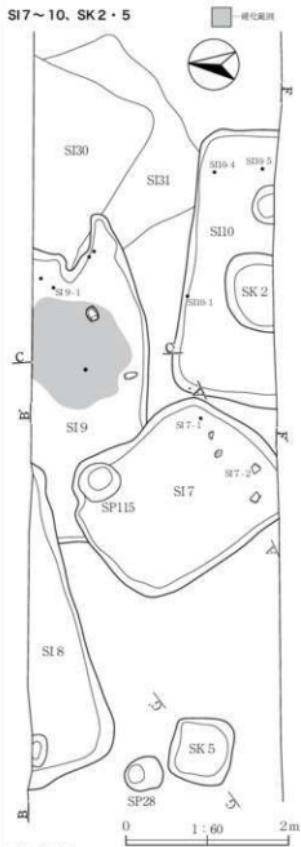


第6図 SI3～6、SK1

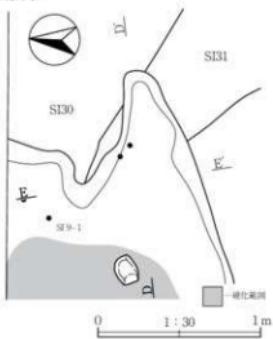
SI4 ~ 6



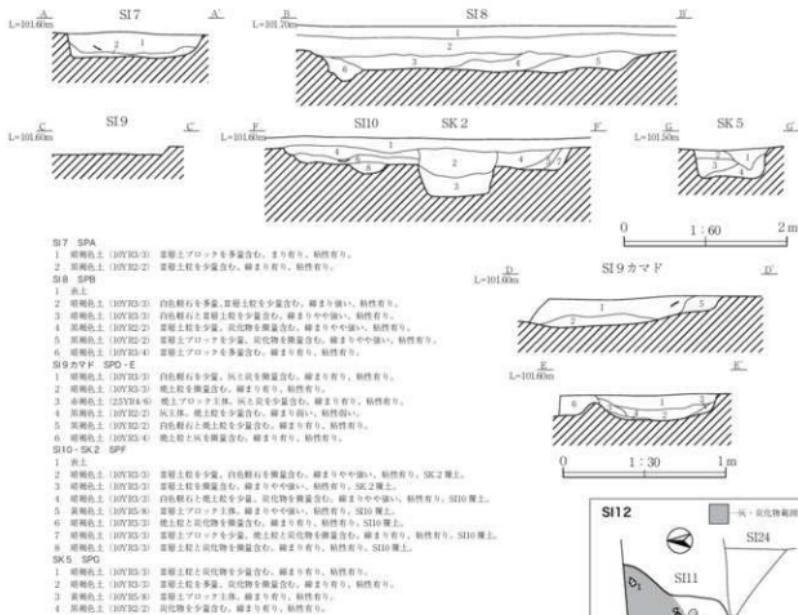
SI7 ~ 10, SK 2 · 5



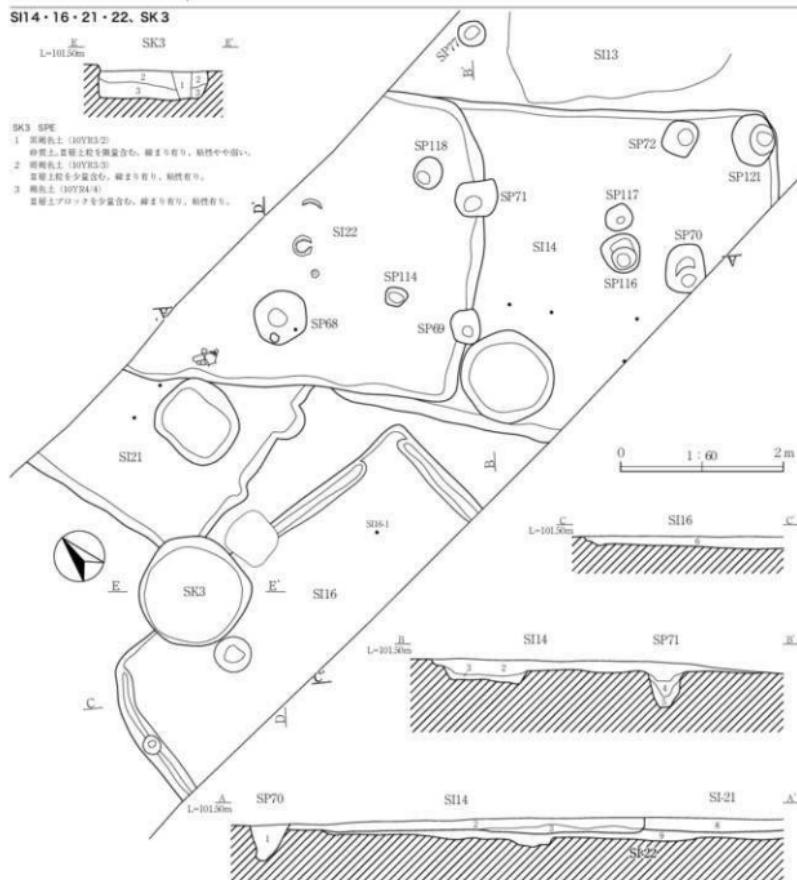
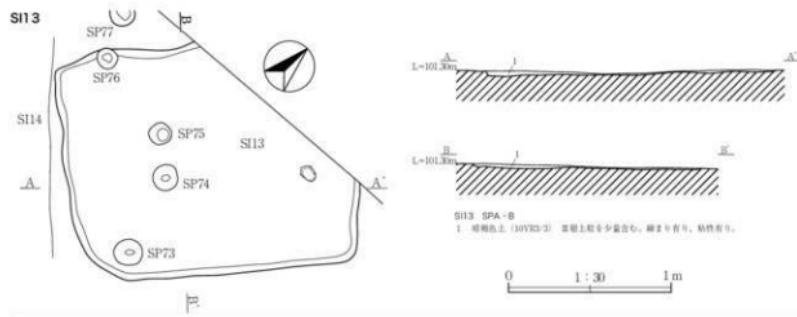
SI9カマド



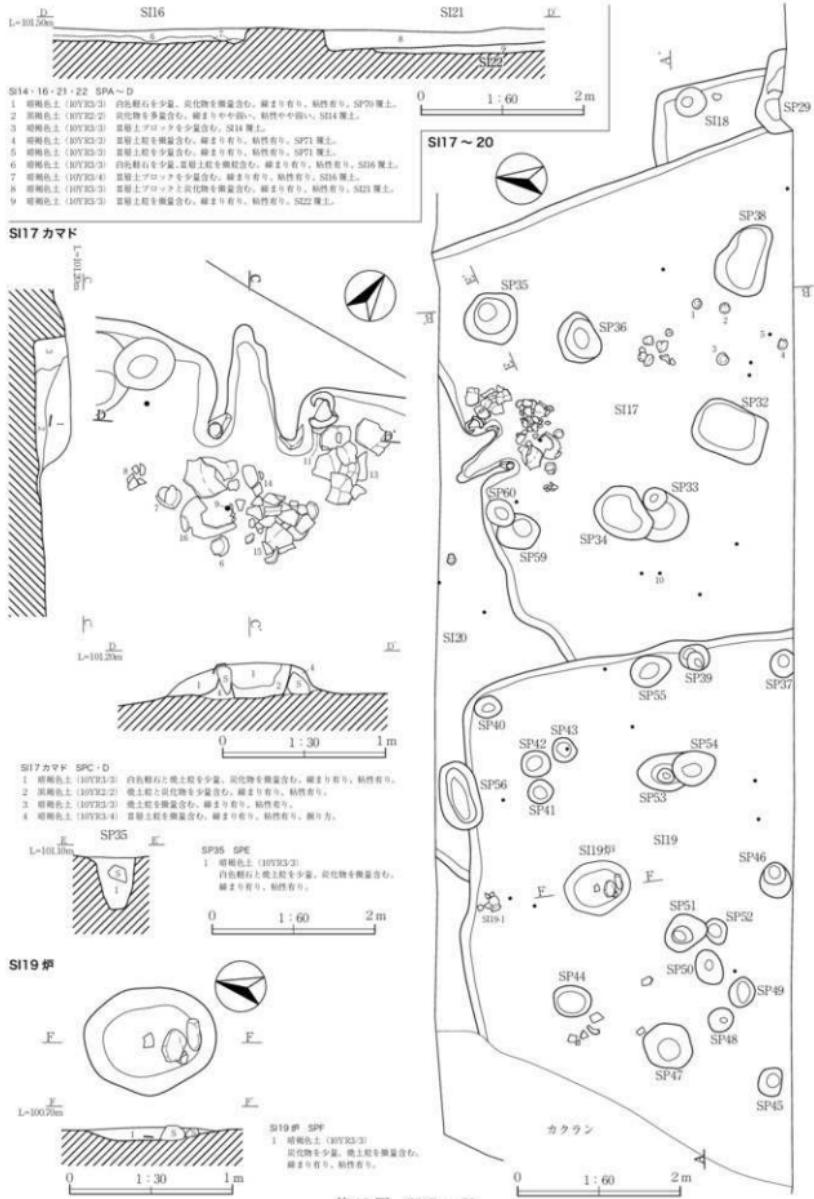
第7図 SI4 ~ 10, SK 2 · 5



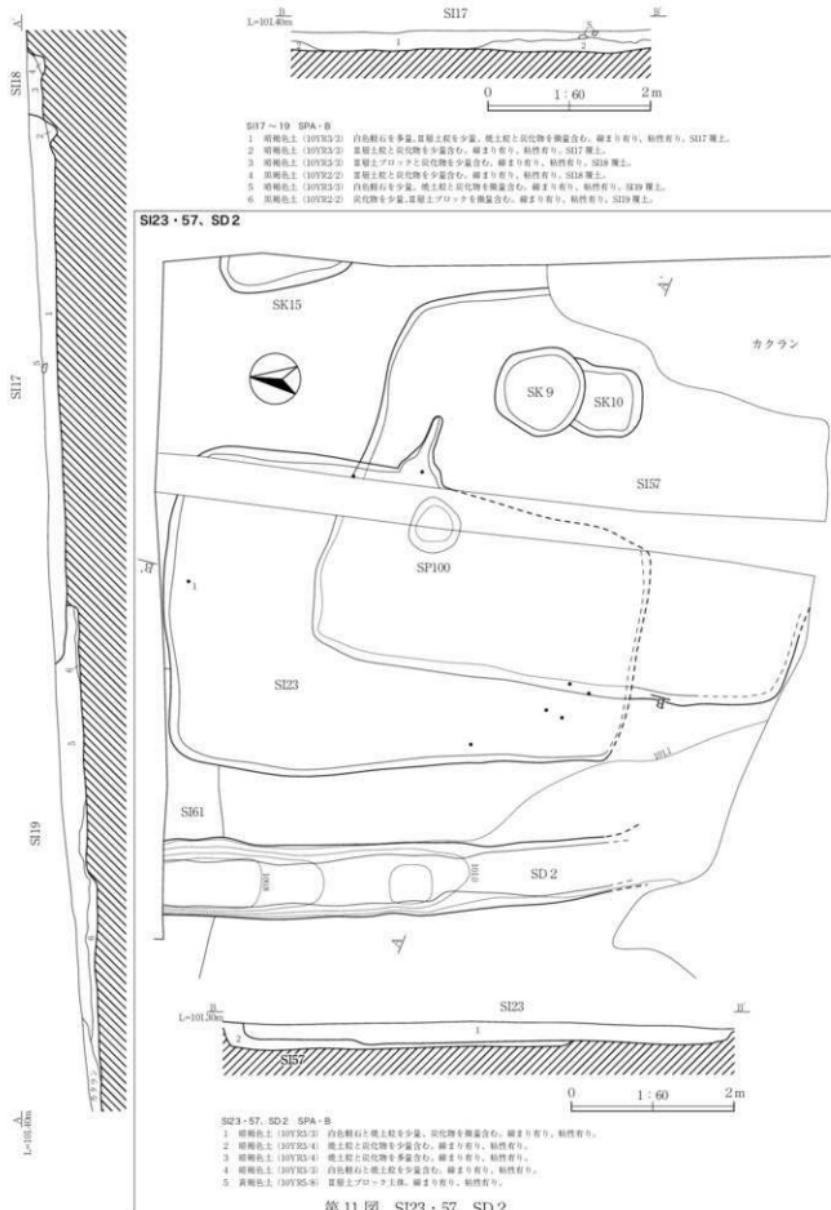
第8図 SI11・12・24・25



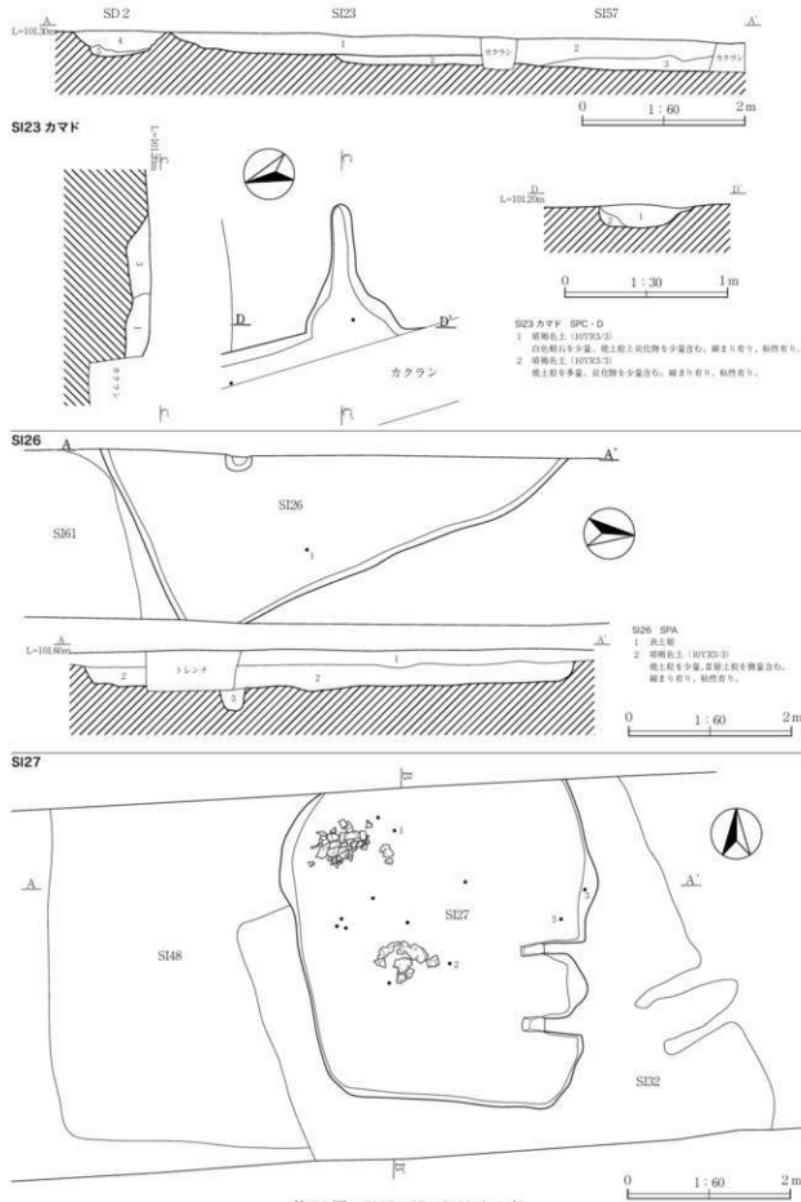
第9図 SI13・14・16・21・22、SK3



第10図 SI17～20

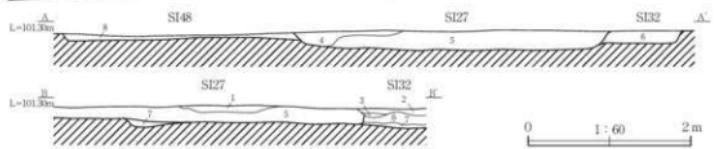
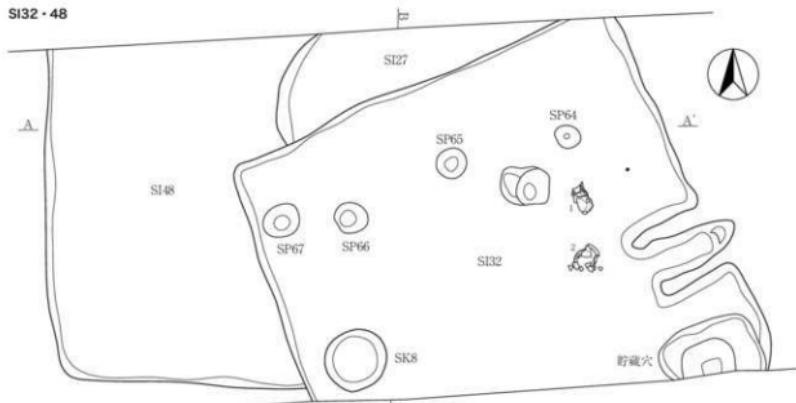


第 11 図 SI23・57、SD 2



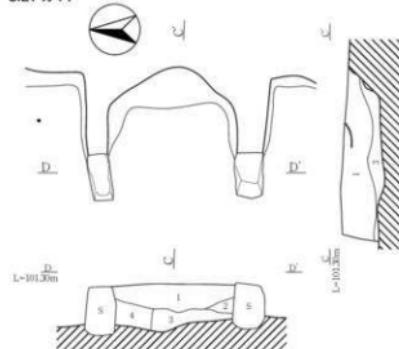
第12図 SI26・27、SI23 カマド

SI32・48

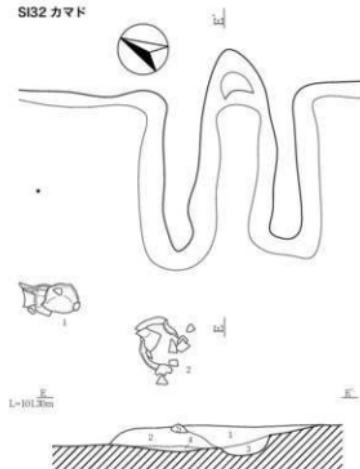


SI27-32・48 SPA・B
 1 明顯褐色土 (10YR7-3) 基岩上ブロック (SI27 カマド構築材) 主体。縫まり有り。粘性や弱い。
 2 白色鈣化土 (10YR4-3) 白色鈣石を少量、他土粒を微混含む。縫まり有り。粘性有り。
 3 細粒褐色土 (2.5YR4-6) 黄土質土。炭化物を微量含む。縫まり有り。粘性有り。
 4 明顯褐色土 (10YR4-3) 基岩上ブロック (SI27 カマド構築材) 主体。縫まり有り。粘性有り。SI27 墓上。
 5 明顯褐色土 (10YR2-3) 白色鈣石を少量、基岩上柱上。他土粒を微量含む。縫まり有り。粘性有り。SI27 墓上。
 6 明顯褐色土 (10YR3-3) 白色鈣石を少量、基岩上柱上を微量含む。縫まり有り。粘性有り。SI27 墓上。
 7 細粒褐色土 (2.5YR4-6) 黄土質土。基岩上柱上を微量含む。縫まり有り。粘性有り。SI27 墓上。
 8 明顯褐色土 (10YR3-6) 白色鈣石と基岩上柱を少量含む。縫まり有り。粘性有り。SI28 墓上。

SI27 カマド



SI32 カマド

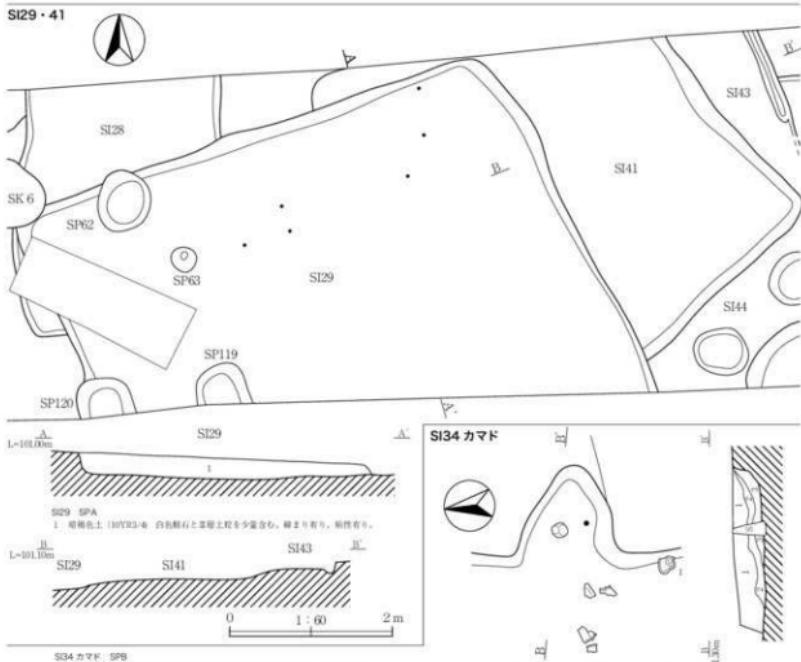
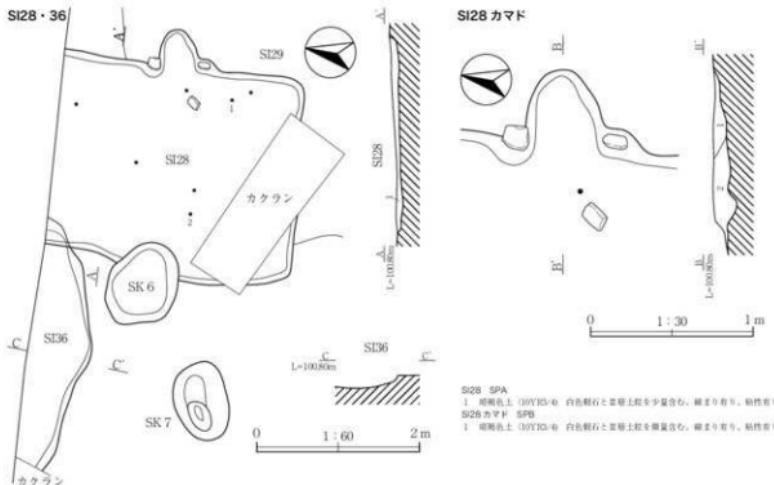


SI27 カマド SPA
 1 明顯褐色土 (10YR3-3) 基土柱と基盤上ブロックを少量含む。縫まり有り。粘性有り。
 2 明顯褐色土 (10YR3-3) 基土柱と少量含む。縫まり有り。粘性有り。
 3 明顯褐色土 (10YR2-3) 基土柱と炭化物を少量含む。縫まり有り。粘性有り。
 4 明顯褐色土 (10YR2-3) 基土柱と炭化物を微量含む。縫まり有り。粘性有り。

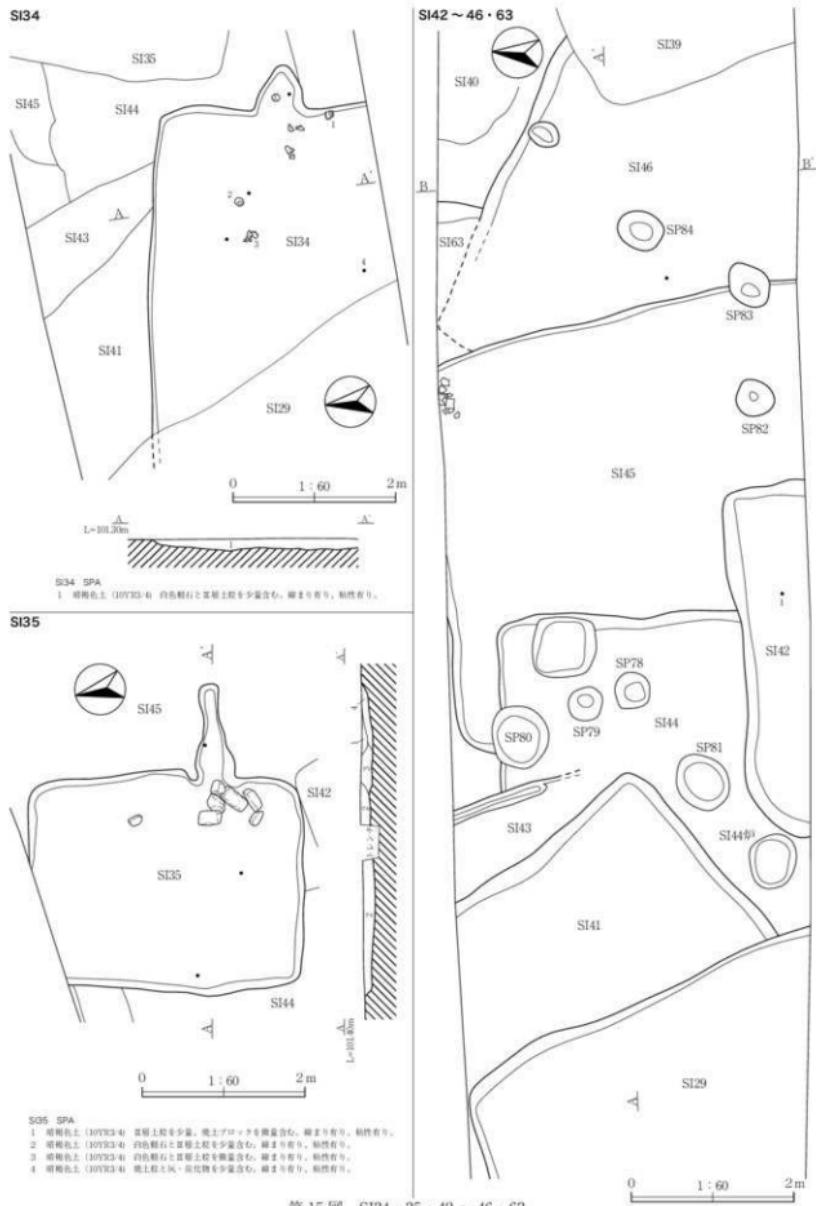
SI32 カマド SPA
 1 明顯褐色土 (10YR3-6) 基盤土柱を少量、炭化物・灰分微量含む。縫まり有り。粘性有り。
 2 明顯褐色土 (10YR3-4) 基盤土柱と他土柱。炭化物を少量含む。縫まり有り。粘性有り。
 3 明顯褐色土 (10YR3-2) 灰化物・灰分柱。他土柱を微量含む。縫まり有り。粘性有り。
 4 明顯褐色土 (10YR5-6) 基盤土柱主体。縫まり有り。粘性有り。



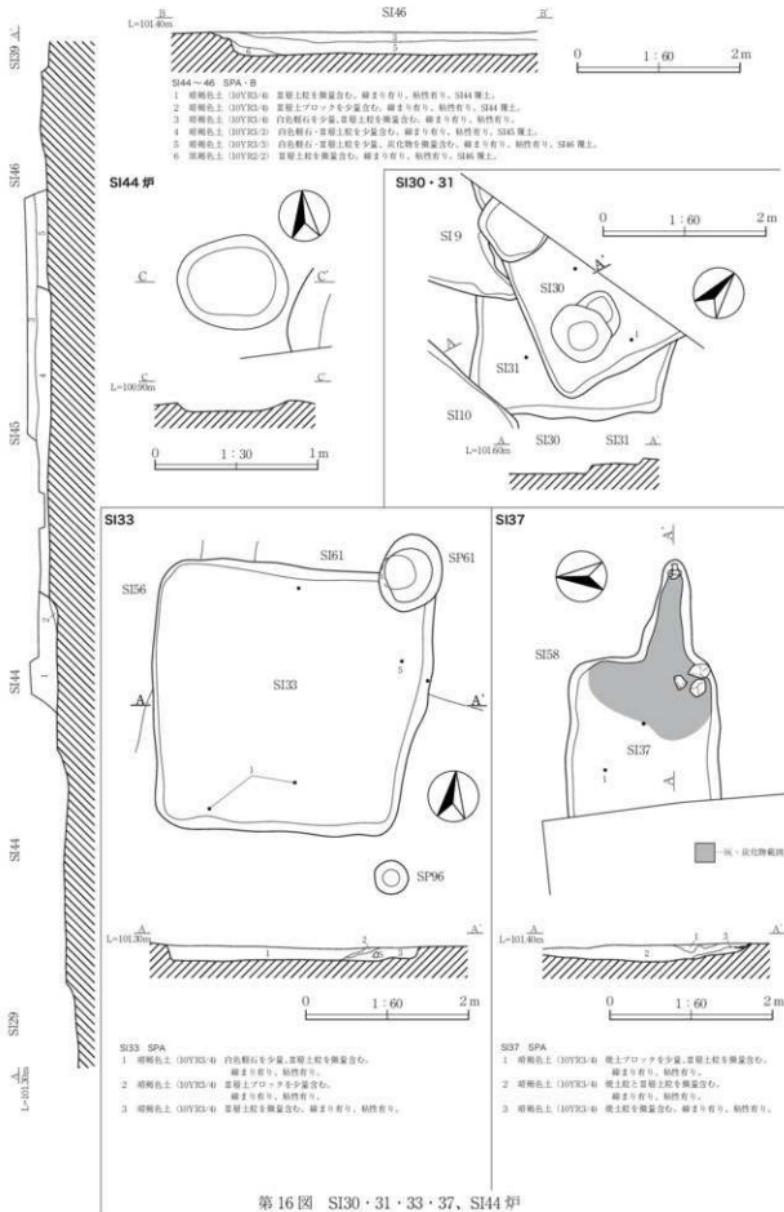
第13図 SI32・48, SI27 カマド



第14図 SI28・29・36・41、SI34 カマド



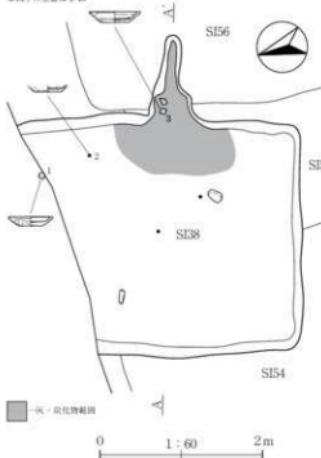
第15図 SI34・35・42～46・63



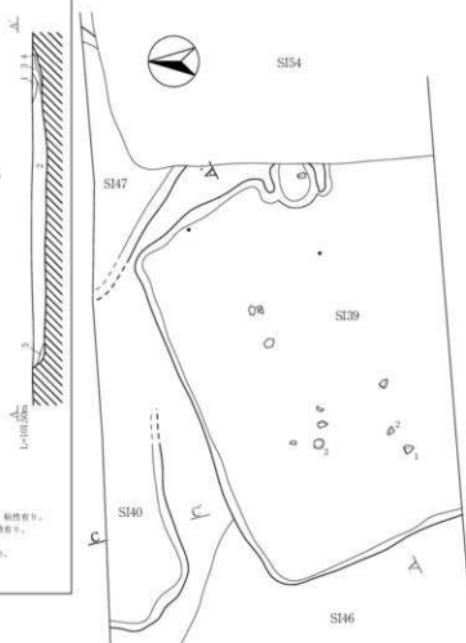
第 16 図 SI30・31・33・37、SI44 炉

SI38

※図中の上部は1/10



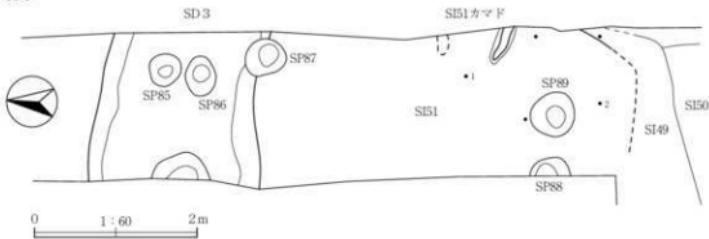
SI39・40・47



SI39 カマド

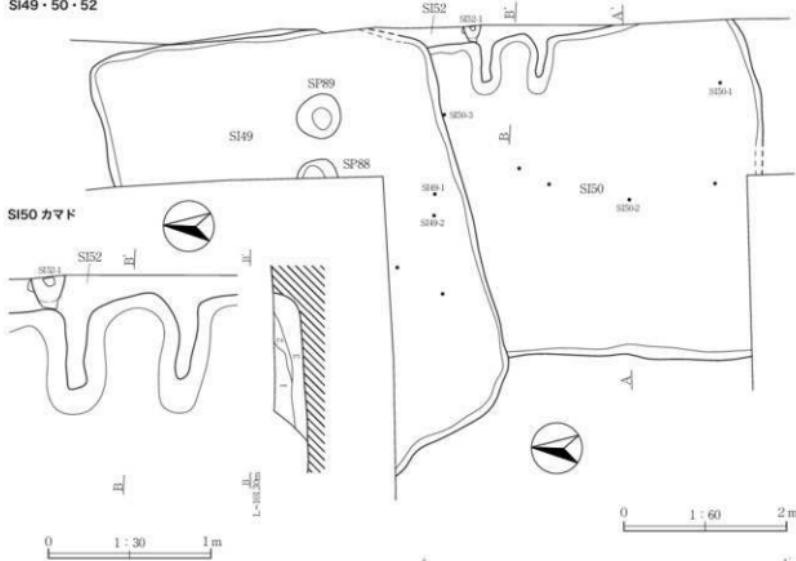


SI51・SD3



第17図 SI38～40・47・51

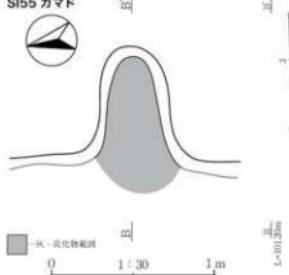
SI49・50・52



SI50 カマド SPA

- 1 喀斯特化土 (10Y3/2-2) 白色軽石と葉岩上部を少量含む。緻密あり。粘性有り。
- 2 地下ブロック土体。緻密あり。粘性有り。
- 3 喀斯特化土 (10Y3/2-4) 葉岩上部を少量、灰を微量含む。緻密あり。粘性有り。

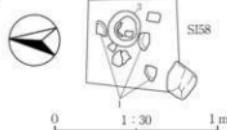
SI55 カマド SPA



SI55 カマド SPA

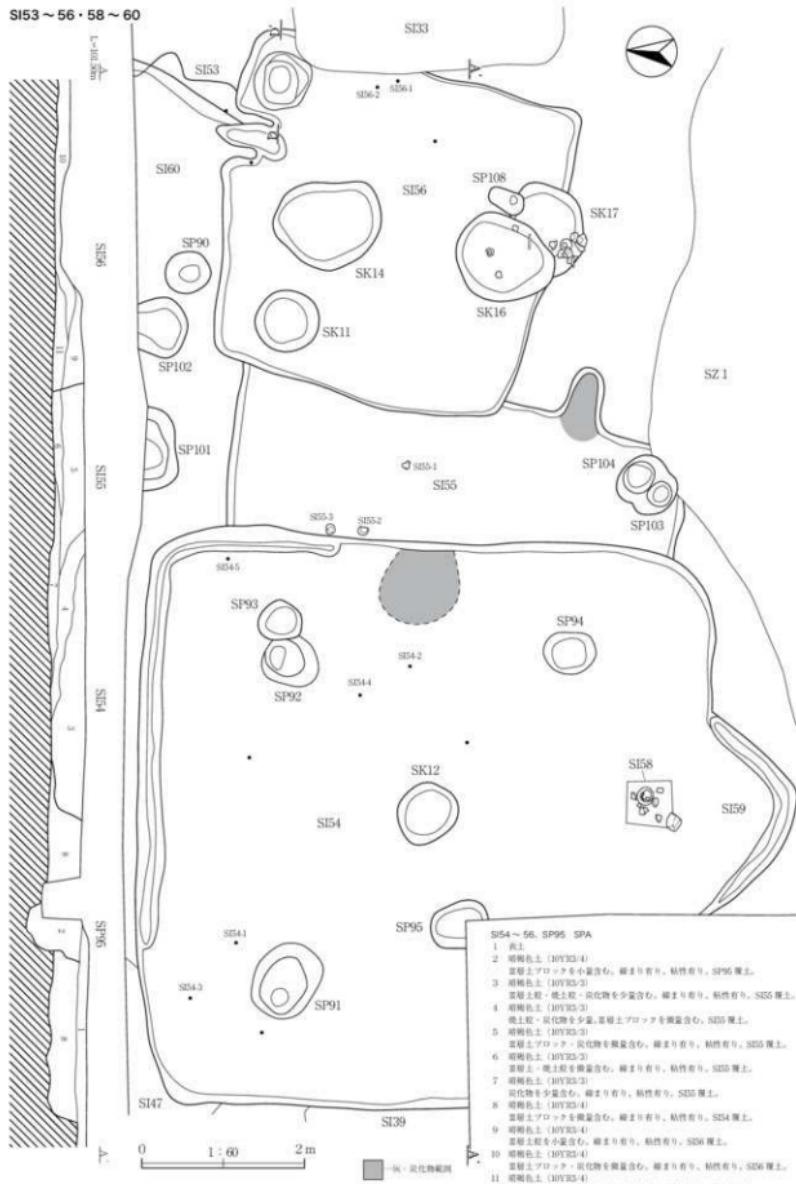
- 1 喀斯特化土 (10Y3/2-2) 地上ブロックを少量、炭化物・灰を微量含む。緻密あり。粘性有り。
- 2 灰岩層地土 (10Y3/2-2) 炭化物・灰を多く含む。緻密あり。粘性有り。
- 3 喀斯特化土 (10Y3/2-4) 地上部を微量含む。緻密あり。粘性有り。

SI58



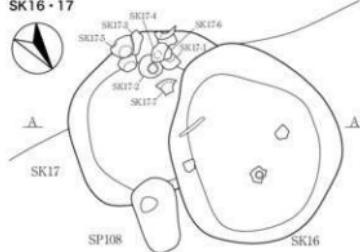
第 18 図 SI49・50・52・58, SI55・56 カマド

SI53 ~ 56 · 58 ~ 60



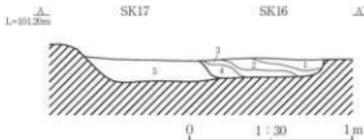
第 19 図 SI53 ~ 56 · 58 ~ 60

SK16・17

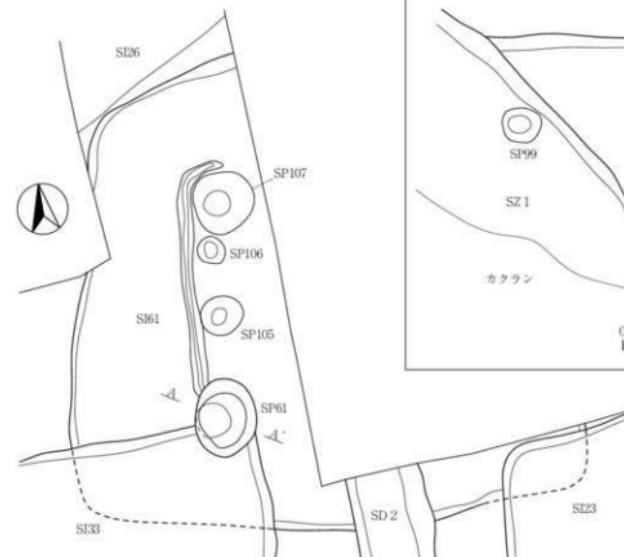


SK16-17 SPA

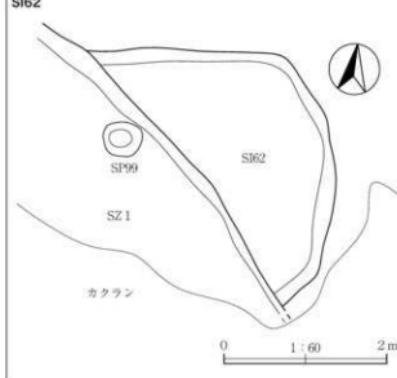
- 1 前期土石 (10Y3G-3) 黄褐色土石を少量含む。緑より有り。粘性有り。SK16 層上。
- 2 前期土石 (10Y3G-4) 黄褐色土石と風化物を微量含む。緑より有り。粘性有り。SK16 層上。
- 3 黒褐色土石 (10Y3G-2) 黄褐色土石、風化物を微量含む。緑より有り。SK16 層上。
- 4 前期土石 (10Y3G-4) 黄褐色土石を少量含む。風化物を微量含む。緑より有り。粘性有り。SK16 層上。
- 5 前期土石 (10Y3G-3) 白色軽石と薄層土石と風化物を微量含む。緑より有り。粘性有り。SK16 層上。



SI61

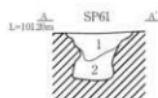


SI62

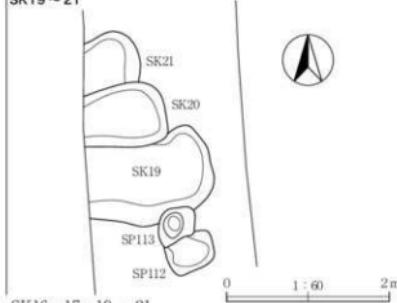


SP61 SPA

- 1 前期土石 (10Y3G-3) 白色軽石と薄層土石を少箇含む。緑より有り。粘性有り。
- 2 前期土石 (10Y3G-3) 黄褐色土石ブロックを少箇含む。緑より有り。粘性有り。

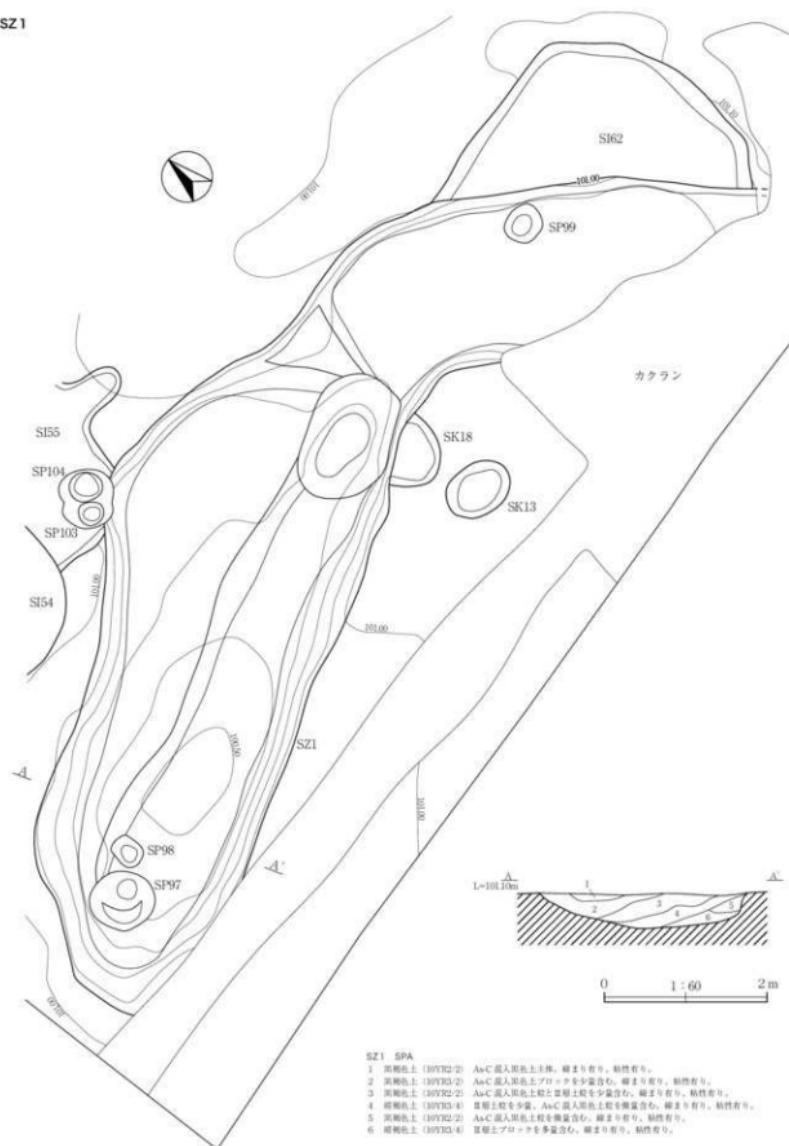


SK19～21



第20図 SI61・62、SK16・17・19～21

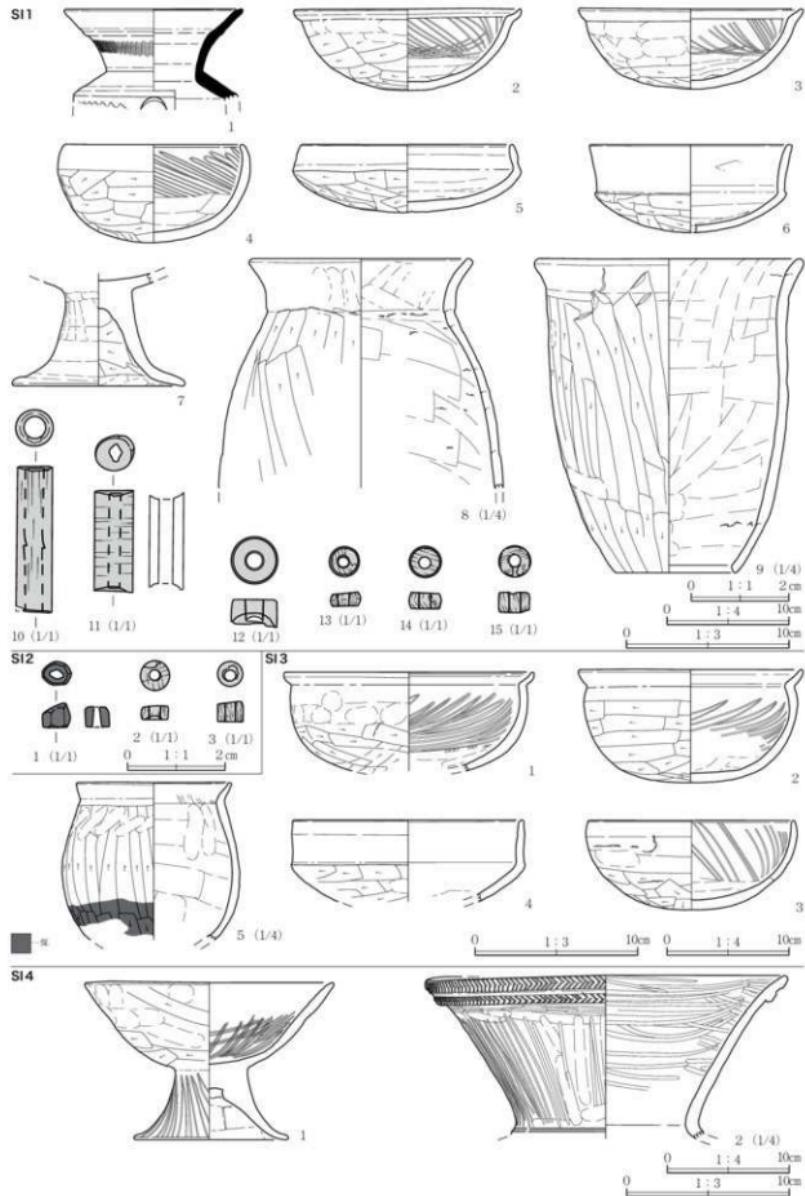
SZ1



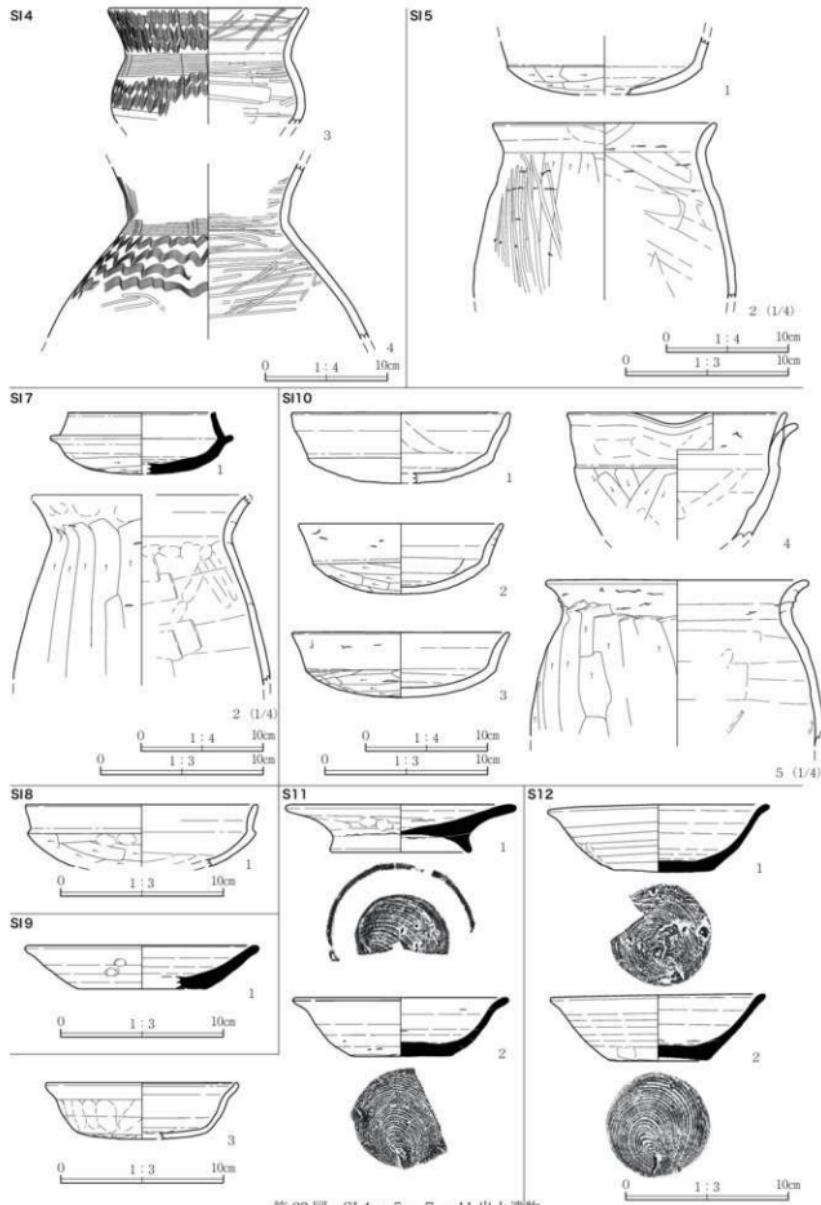
SZ1 SPA

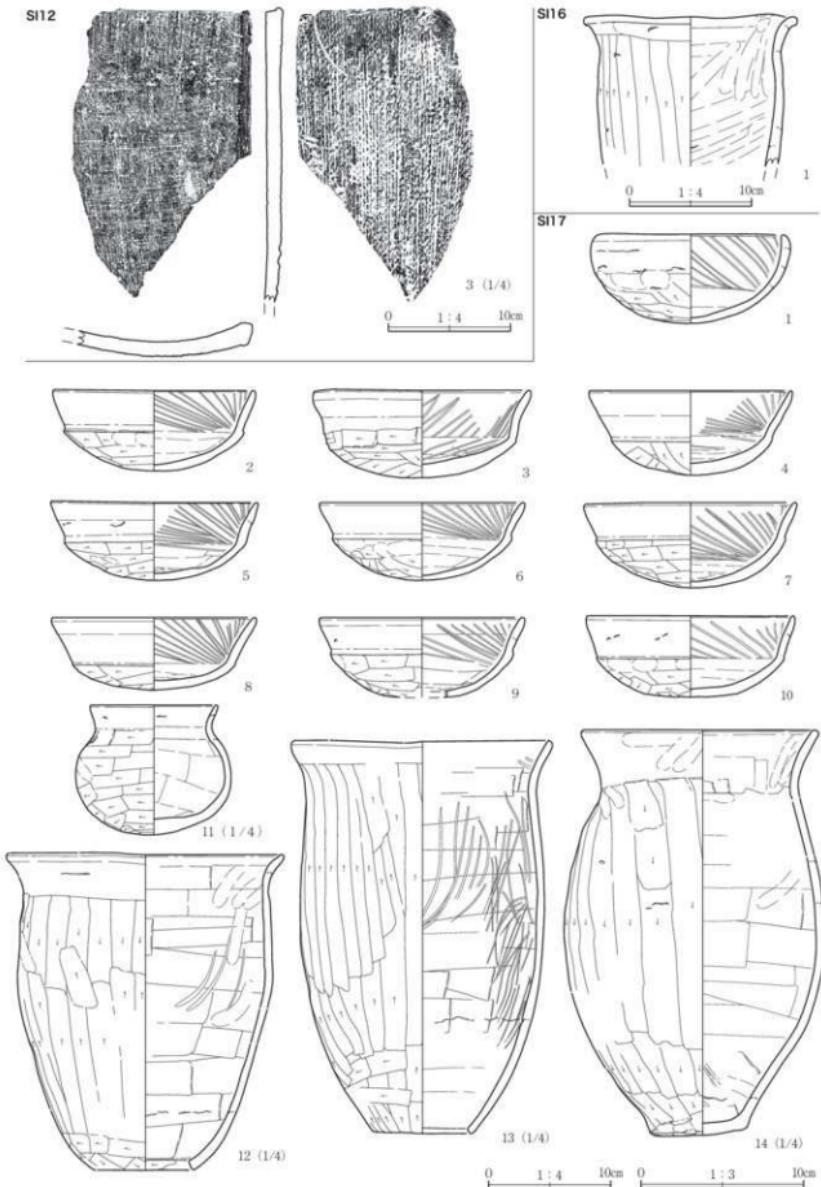
- 1 黒褐色土上 (10YR2/2) As-C 侵入黑色土主体。縮まり有り。粘性有り。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) As-C 侵入黑色土プロックを多量含む。縮まり有り。粘性有り。
- 3 黒褐色土 (10YR2/2) As-C 侵入黑色土主体と亞相土塊を少量含む。縮まり有り。粘性有り。
- 4 黑褐色土 (10YR3/4) Ⅱ型土塊を少量、As-C 侵入黑色土塊を微量含む。縮まり有り。粘性有り。
- 5 黑褐色土 (10YR2/2) As-C 侵入黑色土主体を微量含む。縮まり有り。粘性有り。
- 6 黑褐色土 (10YR3/4) Ⅱ型土プロックを多量含む。縮まり有り。粘性有り。

第 21 図 SZ1

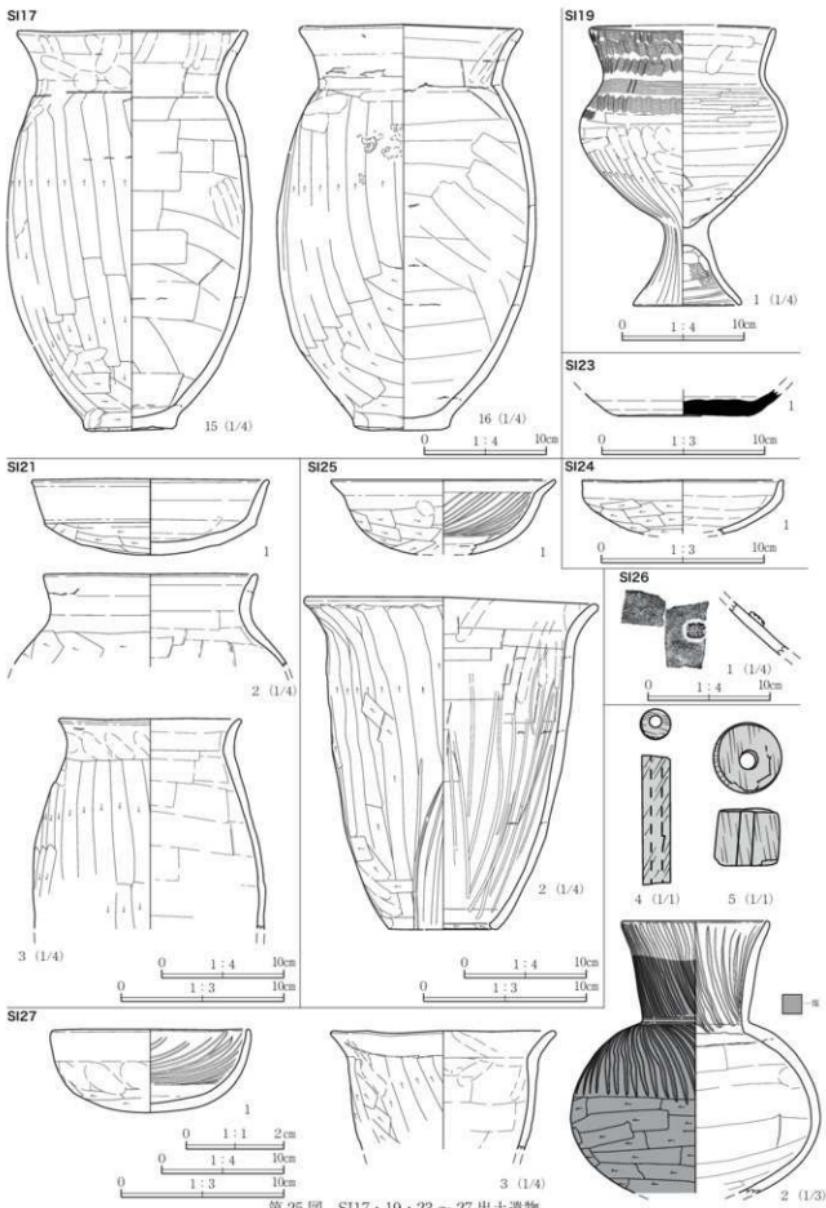


第22図 SI1～4出土遺物

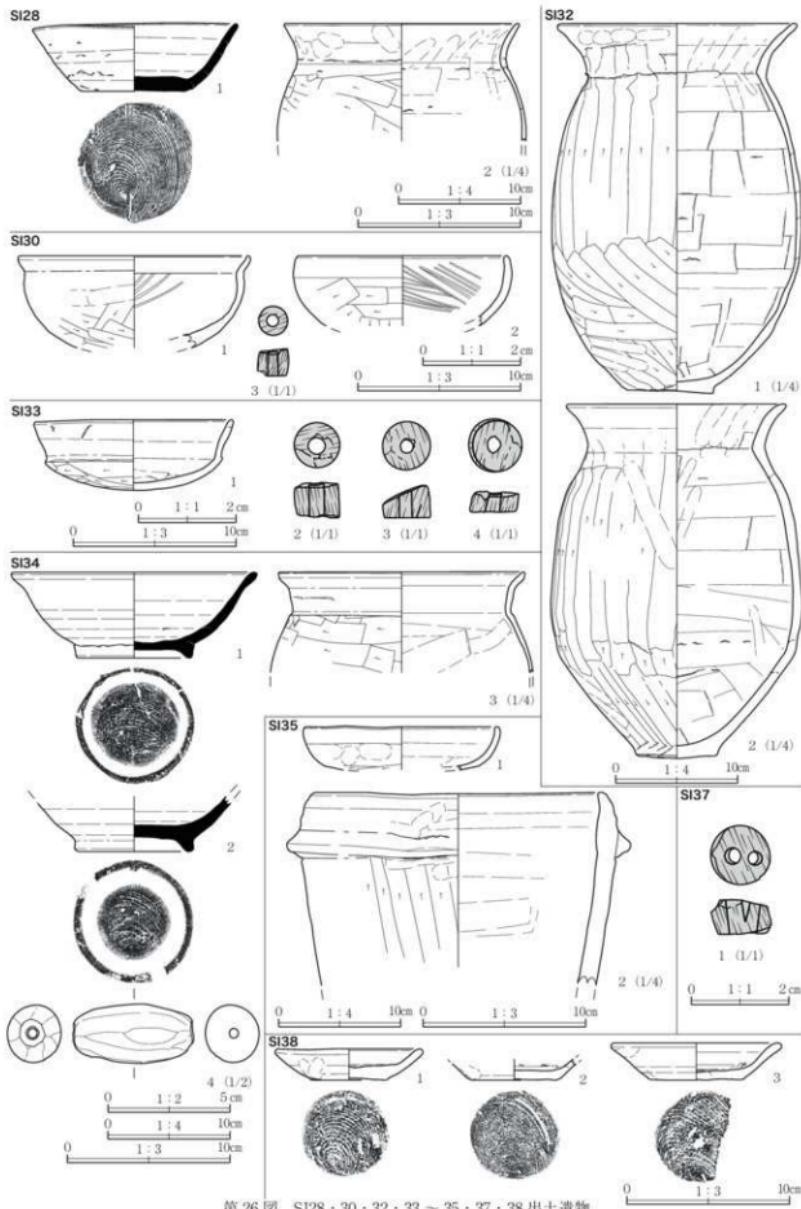




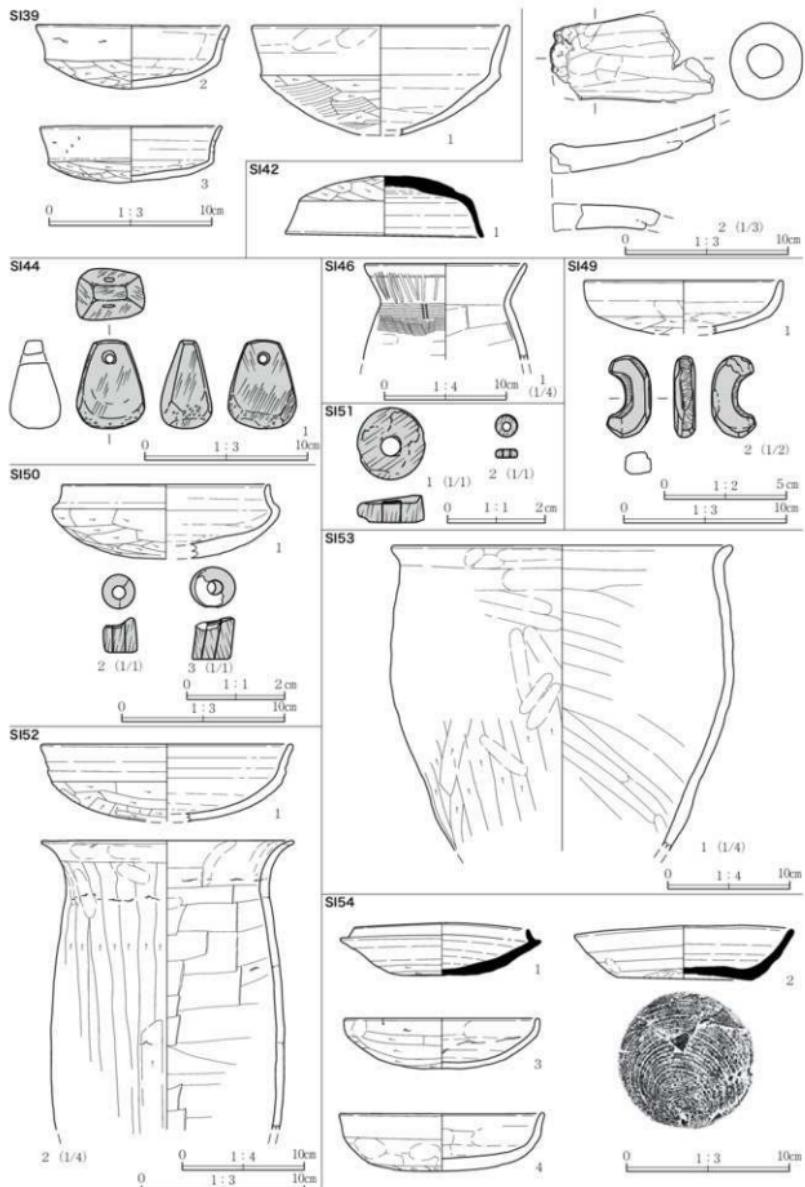
第24図 SI12・16・17出土遺物



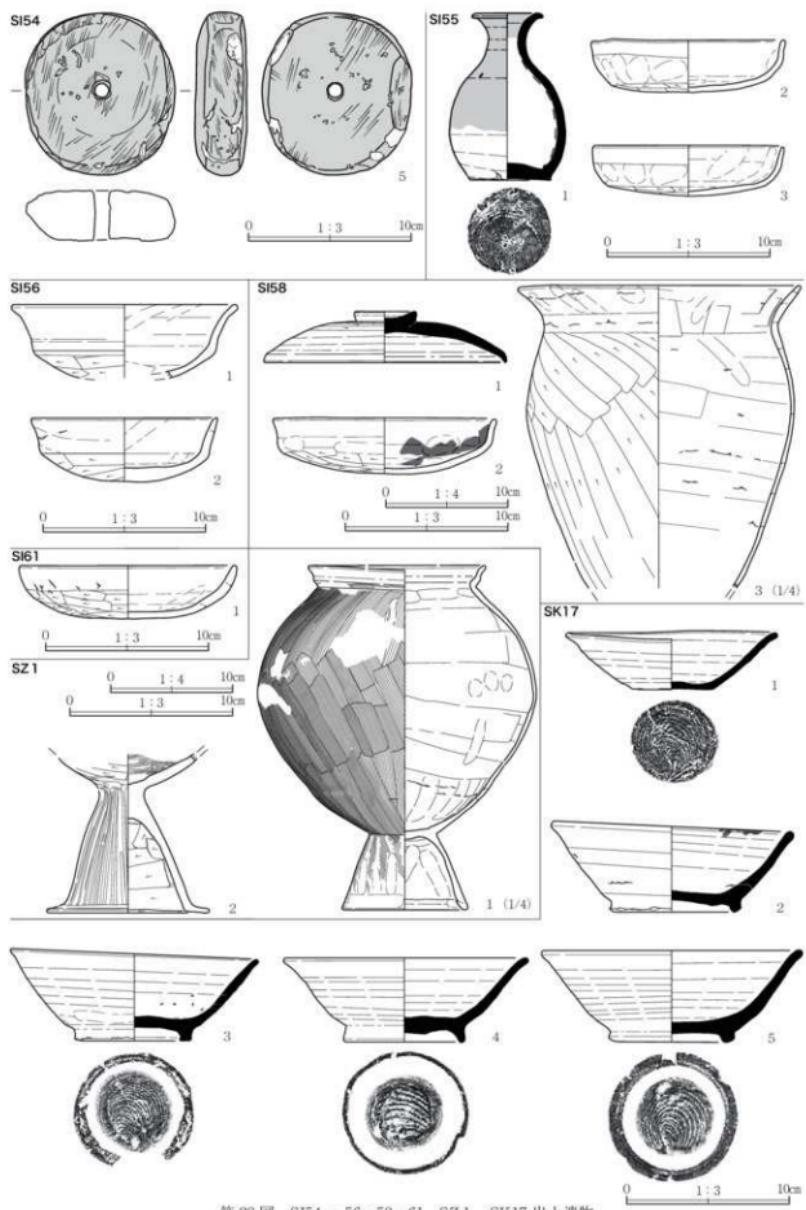
第25図 SI17・19・23～27出土遺物



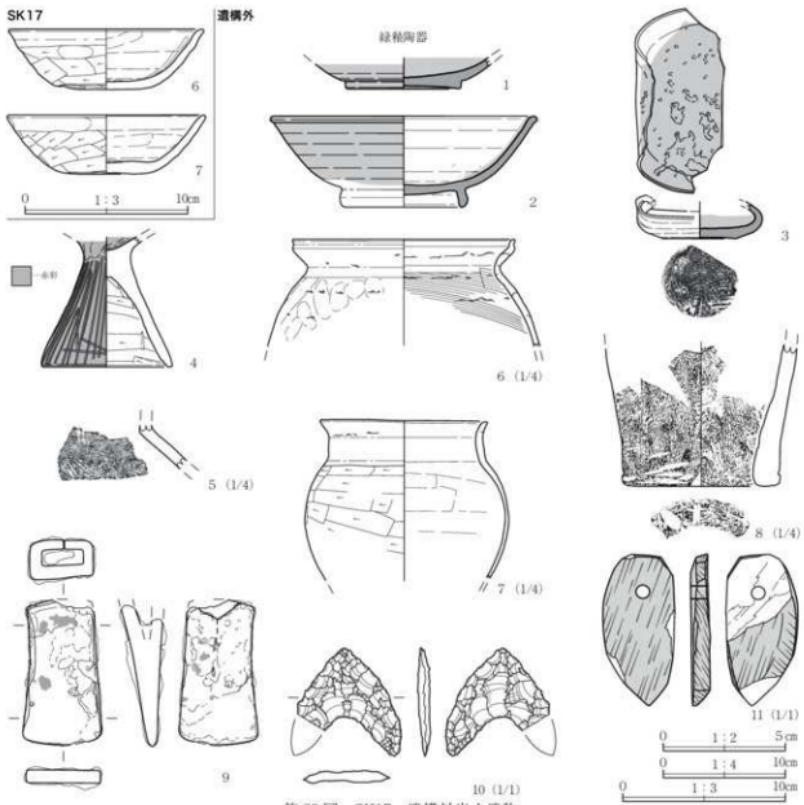
第26図 SI28・30・32・33～35・37・38出土遺物



第27図 SI39・42・43・44・46・49・50～54出土遺物



第28図 SI54～56・58・61、SZ1、SK17出土遺物



第29図 SK17、遺構出土遺物

第1表 大八木寺東遺跡 出土遺物観察表

SI 1

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	施土	焼成	色調	表面、成・形態、文様等の特徴	既存状況・備考
1	深堀	陶器	素	30.2	14.8	6.0	(白)	白化。	灰	内側はオフホワイト、浅褐色～黒褐色の模様で、口付部は灰白色～黒褐色の模様で、施土は白い。施土は口付部に施され、施土部は口付部から全体にかけて1cm程の内側が厚めのオフホワイト、施土部はコリコリ音。	口縁一部剥離あり。
2	カマド周辺	土器	素	24.0	11.0	5.1	(1) 黄色地紋。	白化。	明灰色	内側は湖面模様オフホワイト、内側は口付部から全体へオフホワイト、施土は白い。施土部はコリコリ音。	LSR001-前火鉢。
3	カマド周辺	土器	素	23.7	11.0	5.0	(2) 黄色地紋。	白化。	明灰色	内側は湖面模様オフホワイト、内側は口付部から全体へオフホワイト、施土は白い。施土部はコリコリ音。	LSR002-前火鉢。
4	カマド周辺	土器	素	20.8	11.0	6.1	(3) 黄色地紋。	白化。	明灰色	内側は湖面模様オフホワイト、内側は口付部から全体へオフホワイト、施土は白い。施土部はコリコリ音。	LSR003-前火鉢。
5	深堀	土器	素	15.0	无	4.3	(4) 白色地。	白化。	白化。	内側は湖面模様オフホワイト、施土部は口付部から全体へオフホワイト。	LSR004-前火鉢。
6	カマド内	土器	素	12.2	无	3.0	(5) 黄色地。	白化。	白化。	内側は湖面模様オフホワイト、セラミック土と口付部と底部の間に明確な焼成を持ち、施土部は白い。	LSR005-前火鉢。
7	深堀	土器	素	10.8	7.0	2.0	(6) 白地、黄地。	白化。	白化。	内側は湖面模様オフホワイト、施土部は口付部から全体へオフホワイト。	施土剥離。
8	深堀	土器	素	21.7	10.0	26.2	(7) 黄色地。	白化。	白化。	内側は湖面模様オフホワイト、口付部はオフホワイト。	前頭一灰火鉢。
9	カマド内	土器	素	10.6	无	10.1	(8) 黄色地。	白化。	白化。	内側は湖面模様オフホワイト、口付部はオフホワイト。	LSR006-前頭小火鉢。

VI まとめ

1 はじめに

今回の調査で弥生時代後期から平安時代にかけての堅穴建物跡が63軒検出された。逆E字形の調査区であったため、検出された堅穴建物跡はそのほとんどが部分的な検出に留まっている。しかし出土遺物からある程度の造構年代の想定ができた。ここでは周辺の調査事例を含めて大八木寺東遺跡の集落変遷についてまとめてみたい。

2 集落の変遷

弥生時代後期

弥生時代後期にあたる堅穴建物跡は本遺跡では12軒検出している。調査区の幅が狭いため全容を把握できる建物跡はほぼ無いが、平面形状は方形あるいは長方形を呈していると考えられる。炉跡と見られる造構はSI19のみで確認された。堅穴建物跡の分布範囲は調査区中央部から北西側付近で多く、南東側に向かって少なくなる傾向が見られる。調査区南東部には次項で述べる周溝墓が存在し古墳時代前期の墓域となっている。もしかしたら弥生時代後期頃にも周辺に墓域が存在し、これを避けるように周辺域に集落を開拓していったのかもしれない。本遺跡北西170m付近で天王川が井野川に合流する。この天王川上流部、右岸の島状に残る微高地上に諸口遺跡が立地し、弥生時代後期から古墳時代初頭までの集落が確認されている。天王川左岸は諸口遺跡から本遺跡周辺まで広い自然堤防が続き、井野川左岸の自然堤防に取り込まれている。この微高地の東側には小八木遺跡や小八木志志貝戸遺跡のある低地部が広がっている。また井野川の下流域を見てみると、現在の浜尻町付近の井野川両岸の自然堤防上に弥生時代中期末から後期にかけての集落が存在している（浜尻A地点遺跡等）。本遺跡も天王川・井野川流域の自然堤防上に立地するこれらの集落遺跡の一つであると考えられる。

群馬県内の弥生土器は若狭徹氏により検討されている（若狭2007）。本遺跡の堅穴建物跡から出土した弥生土器の大半は小片であるが、SI 4・19・46で器形が想定できる壺・壺・台付壺が出土している。それらを若狭氏の土器編年と照合すると「樽式土器」に該当する。また、2段の複合口縁壺（SI 4-2）、口縁から胴上半まで櫛描文で充填する壺（SI 4-3）や台付壺（SI19-1）が器種として認められる等の特徴から、樽式土器後半期（樽3期）に分類される。

古墳時代

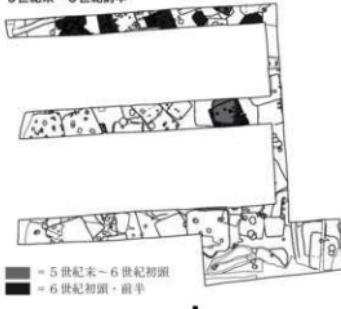
周溝墓を除く調査区内の表探や他造構の覆土中からS字状口縁台付壺の土器小破片が多く出土しているが、4世紀代に帰属する堅穴建物跡は本遺跡においては検出されていない。周辺域では北西側、井野川上流にあたる兩塗遺跡・熊野堂遺跡等で集落が確認されている。該期の造構と想定される周溝墓（SZ 1）は北側の周溝とコーナーを持つ区画内的一部分が検出された。残りの大部分が調査区外であるため全体像は把握できないが、台部において方形区画を指向したと思われる区画プランが認められる事から方形周溝墓（約8m四方の方台部）と想定される。本遺跡周辺の古墳時代の周溝墓は熊野堂遺跡で県内で最も古いとされている前方後方形周溝墓（熊野堂遺跡第Ⅱ区1号周溝墓）が見られる。やや離れた場所では染谷川流域の新保田中村前遺跡や新保遺跡、井野川中流域の貝沢柳町遺跡等で確認できる。高崎市内で確認されている古墳時代の周溝墓は主に井野川中流域（本遺跡より下流）や烏川下流域に集中して分布しているという（高崎市史1999）。

SZ 1出土のS字状口縁台付壺（1）は肩部横位ハケメが消失しており田口一郎氏の編年（田口2000）からIV類に分類される。造構外のS字状口縁台付壺（6）は胴部のハケメが消失しケズリのみの調整から田口分

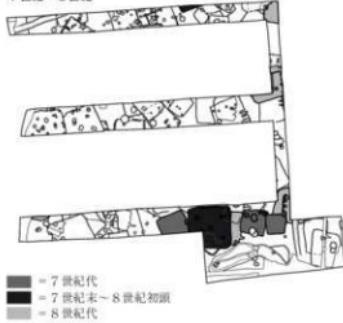
弥生時代後期、古墳時代前期



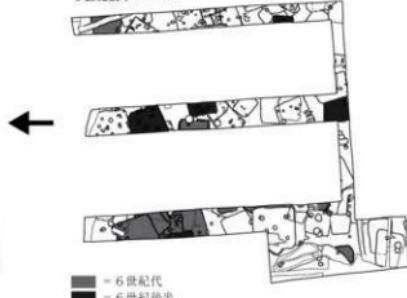
5世紀末～6世紀前半



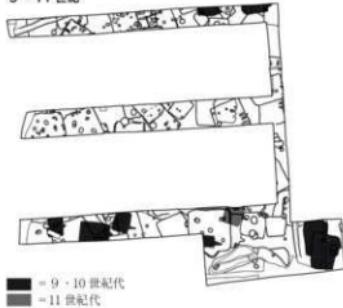
7世紀・8世紀



6世紀後半



9～11世紀



第30図 大八木寺東遺跡 竪穴建物跡変遷図

遺構名	年代	遺構名	年代
SI 1	6世紀前半	SI33	7世紀後半
SI 2	6世紀初頭	SI34	9世紀後半
SI 3	6世紀初頭	SI35	9世紀末～10世紀初期
SI 4	弥生時代後期	SI36	8世紀前半
SI 5	6世紀前半	SI37	9世紀
SI 6	弥生時代後期	SI38	11世紀後半
SI 7	6世紀前半	SI39	7世紀
SI 8	7世紀末～8世紀初頭	SI40	6世紀以前
SI 9	9世紀	SI41	6世紀
SI10	6世紀後半	SI42	6世紀後半
SI11	9世紀前半	SI43	6世紀
SI12	9世紀初頭	SI44	6世紀
SI13	弥生時代後期	SI45	6世紀
SI14	弥生時代後期	SI46	弥生時代後期
SI15	6世紀	SI47	6世紀
SI16	6世紀	SI48	6世紀後期
SI17	6世紀後半	SI49	8世紀
SI18	6世紀後半	SI50	6世紀後半
SI19	弥生時代後期	SI51	8世紀以前
SI20	弥生時代後期	SI52	6世紀末～7世紀初頭
SI21	6世紀後半	SI53	6世紀
SI22	6世紀後半	SI54	7世紀末～8世紀初頭
SI23	9世紀	SI55	6世紀後半
SI24	8世紀前半	SI56	7世紀
SI25	6世紀初頭	SI57	9世紀以前
SI26	弥生時代後期	SI58	8世紀
SI27	5世紀後半～6世紀初頭	SI59	5世紀以前
SI28	9世紀前半	SI60	7世紀以前
SI29	6世紀	SI61	6世紀
SI30	5世紀末～6世紀初頭	SI62	6世紀以前
SI31	弥生時代後期	SI63	6世紀以前
SI32	6世紀前半		

第30図 大八木寺東遺跡 竪穴建物跡変遷図

類のⅦ類に分類される。共に古墳時代前期の新段階に帰属する土器である。

5世紀前半代についても遺物・遺構とともに検出されていない。遺跡周辺においても該期の集落は少ない。5世紀後半頃になると本遺構で再び集落が営まれ始める。6世紀代の堅穴建物跡は26軒と本遺跡で一番の検出量を誇り、分布域も調査区全体に広がる。本遺跡においては内斜口縁壺や内湾口縁壺を主体とするSI25・27・30（5世紀末～6世紀初頭）が古い段階であり、それらに模倣壺が伴ってくる堅穴建物群（SI1・3・5ほか、6世紀前半）が次の段階となる。6世紀後半（SI10・17・21ほか）になると内斜口縁壺と内湾口縁壺の出土量が減り、前段階で直立していた口縁部がやや外反気味になってくる模倣壺が主体となる。建物跡の分布をみると5世紀末～6世紀初頭までは弥生時代後期の集落域と同様に調査区の北側に集中する傾向がみられる。6世紀後半になるとそれまで建物跡の分布が薄かった調査区南側にも建てられるようになり、周溝墓に対しての意識が薄れた事が窺える。本遺跡周辺では弥生時代後期に形成された集落が、古墳時代中期に再び営まれるようになる。正觀寺遺跡や小八木遺跡での様相が見られる。

本遺跡では円筒埴輪の破片が数点出土しており、赤彩しているものが数点見られた。本遺跡直近の古墳は北へ約700mの諸口遺古墳群やオトウカ山古墳等が存在する。これらの古墳の埴輪が本遺跡に流れ込んだ可能性が考えられる。

古代

7世紀代の堅穴建物跡は6世紀代と比較してやや減少する。主に模倣壺と長胴甕を伴って出土している。土器の特徴からSI33が前半代、SI8・54は7世紀末から8世紀初頭と想定される。堅穴建物跡の分布は調査区東側～南東側の井野川から離れた内陸側に集中している。9・10世紀の堅穴建物跡は調査区の北側で3軒、南側で5軒検出している。8軒ともカマドが設置されており、全て東壁に位置する。分布は調査区の北・南側に集中し、中央部では検出されていない。古代の本遺跡周辺は井野川の南側に広がる後背湿地に水田等の生産域を備え、集落域は井野川の自然堤防上や後背湿地の微高地に広く展開していたと考えられる。

SI38で出土している3点のかわらけ状の土師質壺は口径8.8～10.2cm、器高1.9～2.3cmを測る。同様の土器は本遺跡から北東へ約3kmに位置する鳥羽遺跡で出土している。鳥羽遺跡では出土した土器を25段階に分類しており、鳥羽23段階（11世紀第1四半期）では口径10cm前後・器高3cm、鳥羽24段階（11世紀第3四半期）では口径9cm・器高2.5cm、鳥羽25段階（11世紀台四半期）では口径8～10cm・器高2cm以内と分類している。これをみると年代が下ると口径に大きな変化は見られないが、器高は低くなり小型化する傾向が認められる。SI38出土遺物は器高から見ると24段階から25段階の間の時期（11世紀後半）に位置すると想定される。その結果SI38は古代末の堅穴建物跡であると考えられ、本遺跡において最も新しい時期の遺構であると言える。

3 おわりに

本遺跡の集落変遷について概観してみたい。弥生時代後期頃、本遺跡周辺において集落が営み始められ、井野川岸際には周溝墓も造られる様になる。古墳時代前期になると一旦集落が途切れる。古墳時代中期においても集落を営んだ痕跡は見られないが、後期になると再び集落が造られる。当初はそれまでの集落域で収まっていたが、集落の増加に伴い周溝墓のあった遺跡南側にまでその場所を広げるようになる。奈良時代以降、集落の数はやや減少するものの平安時代中頃まで集落が変遷していくと考えられる。

今回の調査で弥生時代後期から平安時代まで続く集落域であったことが明らかになった。人の営みが続いたということは、この場所が生活するには適した土地であったことが言える。

註

- (1) 「拂式の器種は、壺・甕・台付甕・高坏・鉢・有孔钵・片口・盖とバラエティーに富むが、拂3期より後は、壺・甕のはかに残存する器種は鉢程度であり、その他はほとんど消失する。」(若狭2007, p.76)

参考文献

論文等

- 若狭 健 1996 「群馬県地域」『YAY！弥生土器を語る会20回到達記念論文集』 弥生土器を語る会
田口一郎 2000 「北関東西部におけるS字状口縁甕の波及と定着」『S字甕を考える』 東海考古学フォーラム
若狭 健 2007 「古墳時代の水利社会研究」 学生社
深澤敦仁 2015 「拂式文化圏の人々が感じた新たな時代のはじまり」『ゆくものくるもの－北関東の後期弥生文化－』
第24回特別展 かみつけの里博物館

市町村史等

- 中川村誌編纂委員会 1957 『中川村誌』
群馬町誌編纂委員会 1998 『群馬町誌』 資料編I 原始古代・中世
高崎市市史編さん委員会 1999 『高崎市史』 資料編I 原始古代I
高崎市市史編さん委員会 2000 『高崎市史』 資料編II 原始古代II
群馬県教育委員会 2017 『群馬県古墳総覧』

発掘調査報告書

- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988 『鳥羽遺跡 I・J・K区』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990 『熊野堂遺跡(2)』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999 『小八木志賀貝戸遺跡群1』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001 『小八木志賀貝戸遺跡群2』
高崎市教育委員会 2010 『大八木・伊勢廻遺跡2』
高崎市教育委員会 2017 『大八木換地分遺跡』
高崎市教育委員会 2018 『小八木薬研寺遺跡』
高崎市教育委員会 2018 『中泉十王堂遺跡3』
高崎市教育委員会 2018 『井野經敷塚遺跡』



調査区全景（上が西、道路西側で井野川が南流する）



調査区全景（上が北）



調査区北西側全景（上が北）



調査区北東側全景（上が北）



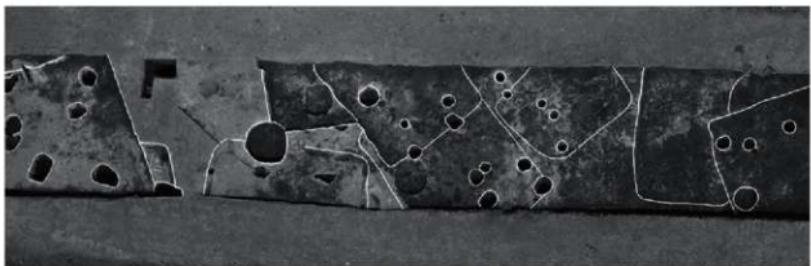
調査区東側全景（上が北）



調査区中央全景（上が北）



調査区西東側全景（上が北）



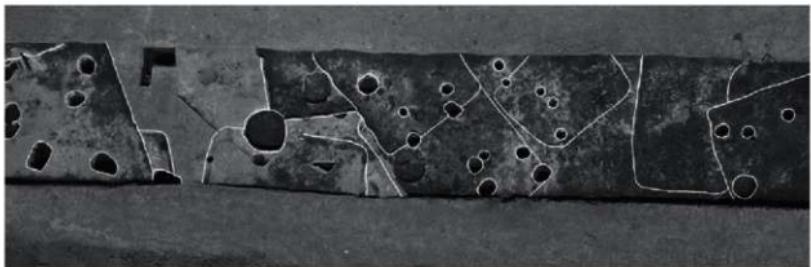
調査区中央側全景（上が北）



調査区南東側全景（上が北）



調査区南側全景（上が北）



調査区南側全景（上が北）



調査区南西側全景（上が北）



SI 1・2 全景（南西から）



SI 1 カマド全景（南から）



SI 3 全景（西から）



SI 3 カマド全景（西から）



SI 4 ~ 6 全景（南西から）



SI 7 ~ 8 全景（南東から）



SI 9 全景（西から）



SI 9 カマド全景（西から）



SI 10 全景（南東から）



SI 11 ~ 24 ~ 25 全景（南西から）



SI 12 全景（南西から）



SI 13 全景（南から）



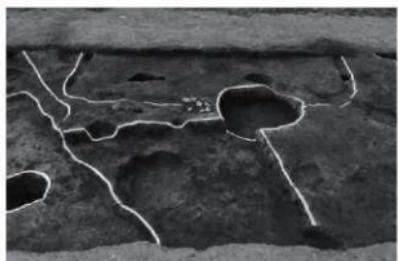
SI14・22全景（北西から）



SI15、SD 1 全景（南西から）



SI15カマド全景（西から）



SI16・21全景（南西から）



SI17・18・20全景（南西から）



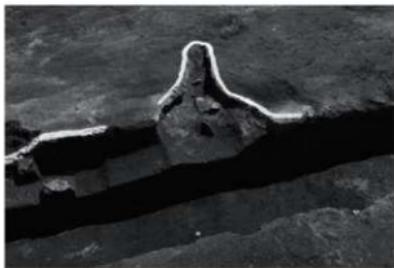
SI17カマド全景（南から）



SI19全景（南西から）



SI23全景（西から）



SI23カマド全景（西から）



SI26全景（南東から）



SI27全景（西から）



SI27カマド全景（西から）



SI28全景（西から）



SI28カマド全景（西から）



SI30・31全景（南から）



SI32全景（南西から）



SI32カマド全景（北西から）



SI34全景（西から）



SI34カマド全景（西から）



SI35全景（西から）



SI35カマド全景（西から）



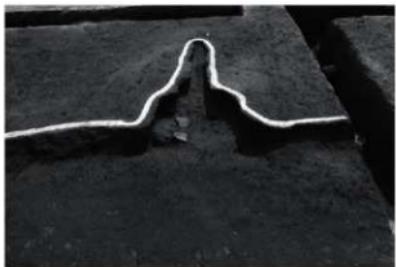
SI37全景（西から）



SI37カマド全景（西から）



SI38全景（西から）



SI38カマド全景（西から）



SI39全景（南西から）



SI39カマド全景（南西から）



SI29・36全景（南西から）



SI41～44全景（南西から）



SI45・46全景（南西から）



SI39・40・46全景（北西から）



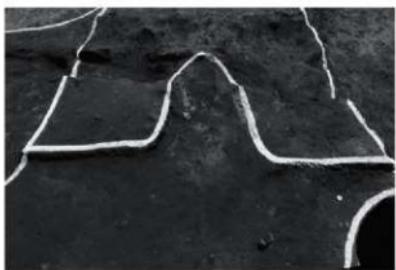
SI49～52全景（南から）



SI53全景 (西から)



SI54全景 (北西から)



SI55カマド全景 (西から)



SI56カマド全景 (南西から)



SI61全景 (南西から)



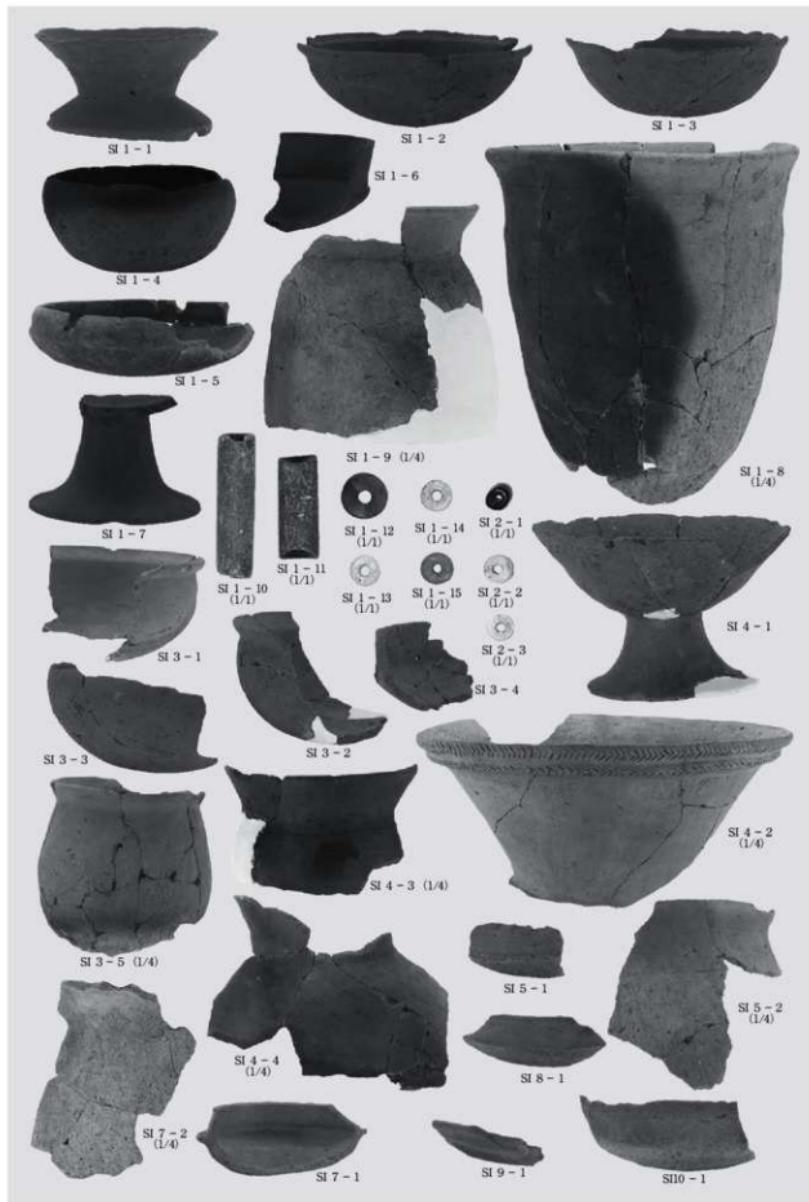
調査区南西側SI群全景 (北西から)

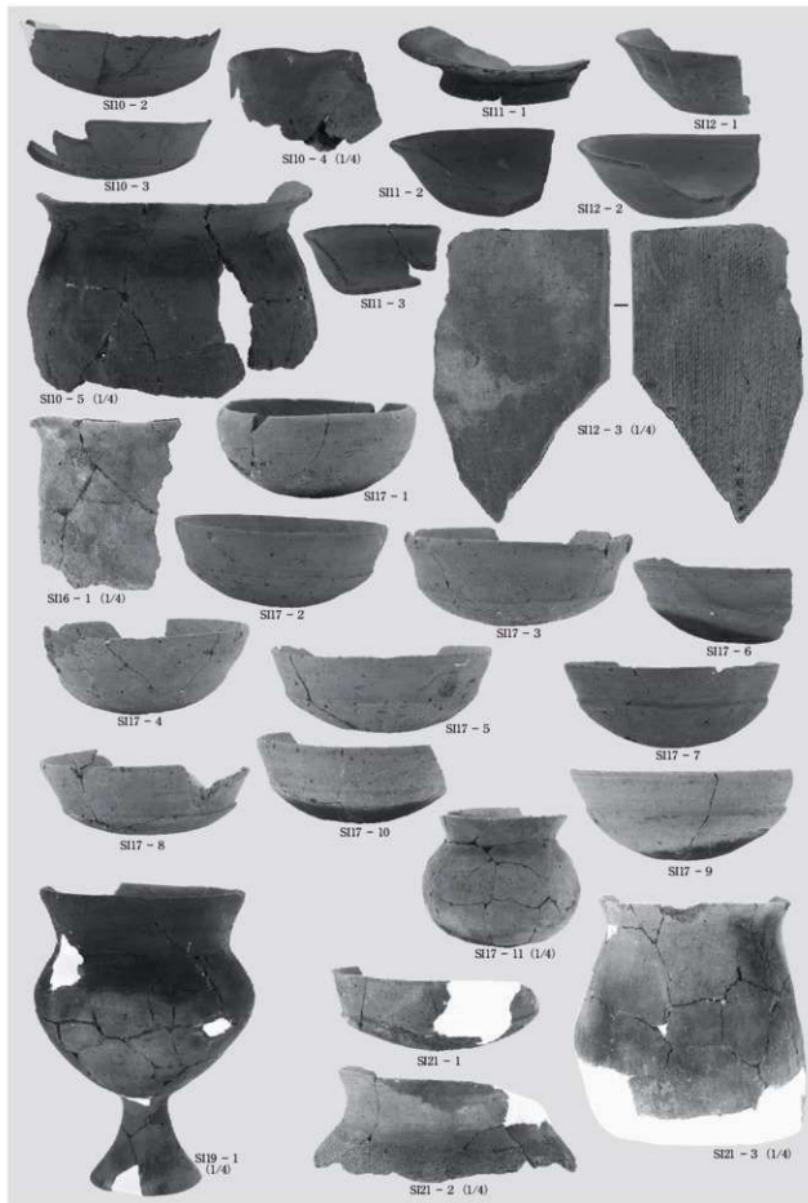


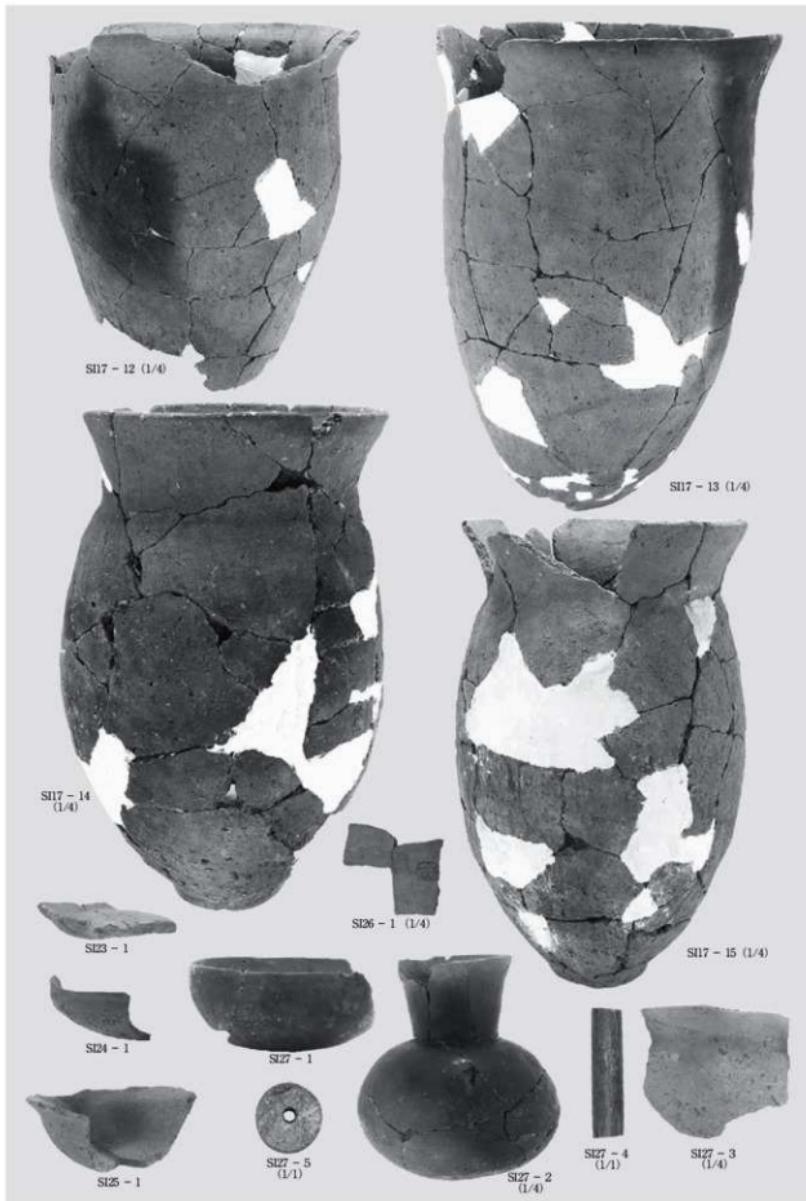
調査区南西側SI群全景 (北西から)

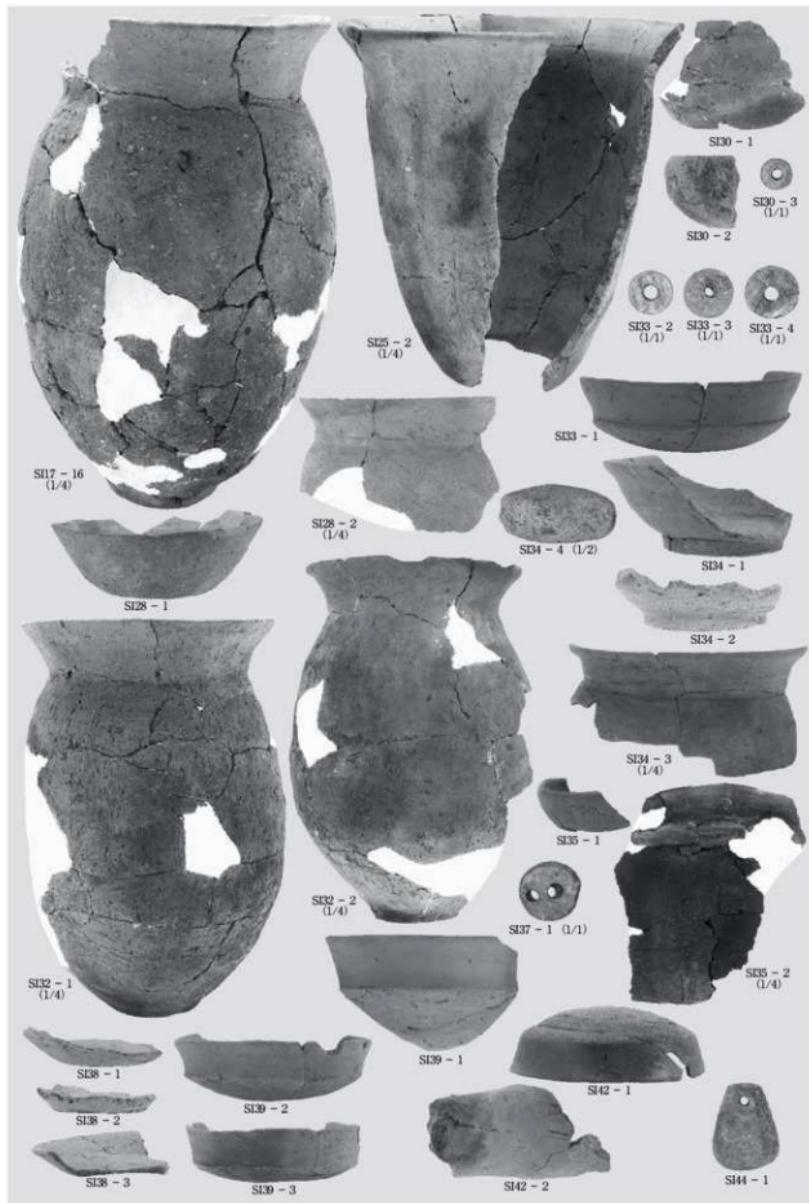


SZ1全景 (東から)













報告書抄録

ふりかな	おおやぎでらひがしこじせき
書名	大八木寺東遺跡
副書名	工場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	-
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第453集
編著者名	佐野良平
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371-0031 群馬県前橋市下小出町1-15-3
発行機関	高崎市教育委員会
発行機関所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35-1
発行年月日	2020年7月31日

ふりがな	ふりがな	コード	位置	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	
大八木寺東遺跡	高崎市 大八木町字寺東1197番8、 小八木町字掛ノ上311番4	102020	793	36°42' 81"	139°1' 8"	2020/03/05 2020/04/28
					789.8m ²	工場建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大八木寺東遺跡	集落 墓	弥生 古墳 奈良 平安	堅穴建物 周溝墓 溝 土塙 ヒット	63軒 1基 3条 21基 122基	・井川の自然堤防状微高地に立地する ・弥生時代後期～平安時代の集落跡 ・古墳時代後期の方形周溝墓

大八木寺東遺跡
工場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2020年7月30日 印刷
2020年7月31日 発行

発行

高崎市教育委員会

〒371-8501 群馬県高崎市高松町35-1

TEL (027) 321-2902

技研コンサル株式会社

朝日印刷工業株式会社

編集

印刷

